

(仮称) 道の駅「八千穂高原 IC」基本計画  
(改定検討案)

サウンディング型市場調査用 参考資料

令和3年10月

佐久穂町

# 目 次

## 第1章 計画地をとりまく立地・市場環境の整理及び分析

1. 計画地の立地環境条件	
(1) 自然、歴史等	1
(2) 交通条件の現況及び将来計画	3
(3) 自動車類交通量調査	6
2. 計画地の市場環境条件	
(1) 人口動向	15
(2) 産業、特産品等	19
(3) 観光客数	22
(4) 周辺の道の駅及び類似施設等の立地状況	26
3. 上位計画の整理及び本計画との関連づけ	
(1) 第2次佐久穂町総合計画	27
(2) 佐久穂町コミュニティ創生戦略（佐久穂町まち・ひと・しごと創生総合戦略）	28
(3) 本計画との関連づけ	29
4. 道の駅をとりまく市場環境	
(1) 道の駅制度の概要	30
(2) 道の駅登録状況と近年の動き	32
(3) 道の駅の動向	33
(4) まちの駅（佐久穂町農産物直売所）の利用状況について	37
(5) 道の駅の需要動向	39
(6) 立地市場環境が類似した施設の成功事例	42

## 第2章 導入機能及び施設規模の検討

1. 道の駅整備に係る計画地の現況評価及び課題	
(1) 立地環境条件	48
(2) 市場環境条件	49
(3) 上位計画の整理及び本計画との関連づけ	50
(4) 道の駅をとりまく市場環境	50
2. 利用客数の推計	
(1) 交通量からみた道の駅利用客数の推計	51
(2) 計画地における利用客数の想定	52

3. 佐久穂町内等で活動する事業者の本事業への参加意向	53
4. 導入機能及び施設規模の検討	
(1) 導入機能の検討	53
(2) 道の駅で目指す地域連携機能の具体像	54
(3) 基本的機能の施設規模	59
(4) 施設配置計画	67

### 第3章 事業計画

1. 概算事業費の想定	
(1) 施設規模等を基にした概算事業費	72
(2) 活用可能な補助制度の整理及び本計画への導入可否検討	73
2. 概算収支の想定	
(1) 物販・飲食機能提供施設での収入	74
(2) 物販・飲食機能提供施設での支出	77
(3) 収支の試算	78
(4) 公共スペース部分の維持管理費	80
(5) 試算結果のまとめ	80
3. 事業手法の検討	
(1) 事業手法選定の方針	81
(2) 事業手法の候補の整理	83
4. 道の駅の利活用による地域振興方策の検討	
(1) 道の駅を利活用した地域振興方策の例	85
(2) 地域振興となる事業の例	88
5. 事業スケジュールと今後の課題検討	
(1) 事業スケジュールの検討	93
(2) 事業実施に向けた課題・問題点の抽出及び対応策の検討	94

## 第1章 計画地をとりまく立地・市場環境の整理及び分析

### 1. 計画地の立地環境条件

#### (1) 自然、歴史等

佐久穂町（以下、同町）は平成17年3月20日に旧佐久町と旧八千穂村の両町村が合併し、誕生した。

同町は長野県の東部、南佐久郡の北部に位置し、東西に細長い形状となっている（東西29.5km、南北14.8km）。町の東側は秩父山系に属する十石峠、余地峠を境に群馬県上野村及び同南牧村と接し、西は八ヶ岳山系の横岳及び麦草峠を境に茅野市と接している。北は佐久市、南は小海町及び北相木村と接している。

町の中央部には千曲川が南北に貫流し、いくつもの中小河川が合流しており、計画地の南側にはそのひとつである大石川が流れている。

標高は市街地で740m前後、景勝地として有名な白駒の池付近では2,100mと町内でも高低差がある。また、町内の約7割は山林であり、代表的な樹木として八千穂高原のシラカバが挙げられる。計画地付近は標高800m、田園地域が広がっている。

図表 佐久穂町の現況



資料：国土地理院「電子国土Web」

図表 隣接市町村の概要

位置	市町村名	人口(人)	男(人)	女(人)	世帯数(世帯)
	佐久穂町	11,186	5,392	5,794	4,014
東	群馬県上野村	1,230	609	621	578
	南牧村	1,979	927	1,052	953
西	茅野市	55,912	27,811	28,101	22,301
南	小海町	4,713	2,276	2,437	1,873
	北相木村	774	381	393	333
北	佐久市	99,368	48,454	50,914	38,487

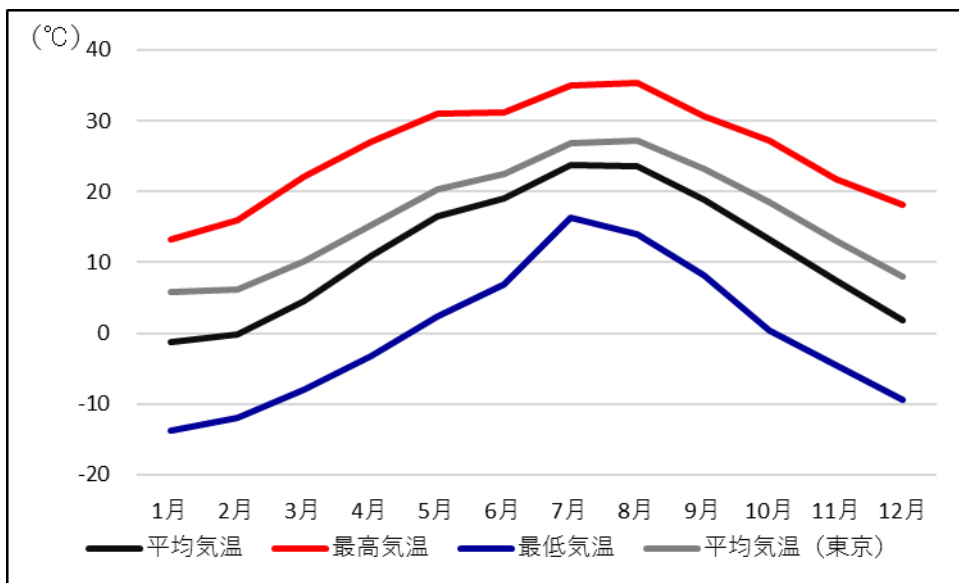
資料：平成27年国勢調査結果

資料：「平成29年版 佐久穂町統計書」

年間平均気温は 10℃前後、季節及び昼夜の寒暖差が大きく、また、降水量は 800mm 前後と少ない内陸性気候である。積雪は年数回で 5～30cm 程度、30cm を超えるのは年 1～2 回程度である。

長野県は全国的にも縄文遺跡が数多く残る地域として知られ、同町でも麦草峠を中心とした黒曜石（石器の材料）の産地が有名である。また、江戸時代以降に米や養蚕等で栄えた当時の旧商家が残る町並みも風情がある。

図表 佐久穂町の気象条件



	佐久穂町			東京	降水量(mm)	
	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	平均気温 (°C)	佐久穂町	東京
1月	-1.2	13.3	-13.7	5.7	18.7	55.3
2月	-0.1	16.0	-12.0	6.2	26.4	62.4
3月	4.6	22.1	-7.9	10.2	40.1	123.2
4月	10.9	27.0	-3.3	15.3	41.7	127.0
5月	16.5	31.0	2.4	20.3	45.9	115.1
6月	19.1	31.1	6.9	22.5	87	188.6
7月	23.8	35.0	16.3	26.8	105.9	121.9
8月	23.5	35.4	14.0	27.2	136.6	170.1
9月	18.9	30.6	8.2	23.2	118.5	304.1
10月	13.2	27.2	0.3	18.4	100.7	226.2
11月	7.4	21.7	-4.5	13.1	34	97.4
12月	1.8	18.1	-9.5	8.0	21.1	57.5
年計					776.6	1,648.8

(注) 佐久穂町、東京ともに平成 26～30 年 5 年間平均値

資料：佐久穂町「気象観測システム 佐久庁舎」、東京「気象庁」

(2) 交通条件の現況及び将来計画

1) 広域交通条件

広域道路は首都圏とは関越・上信越・中部横断自動車道とで結ばれており、計画地へは東京から車で約2時間 30分（関越・上信越・中部横断自動車道利用）である。名古屋、大阪方面からは中央自動車道（山梨・小淵沢 IC）より国道 141、299 号を經由して 4～6 時間である。

鉄道は東京から JR 北陸新幹線佐久平駅、小海線（八千穂駅）を経て 2 時間で到達できる。

図表 広域交通図



資料：佐久穂町HP

## 2) 地域交通条件

同町の主要な地域道路交通は佐久市及び山梨県を南北に結ぶ国道 141 号、茅野市より麦草峠、計画地前を経て、群馬県、埼玉県との東西に延びる国道 299 号がある。前者は同町の日常生活圏道路としての機能、後者は八千穂高原、十石峠等の観光地を巡る非日常圏機能を有している。

計画地は 299 号に接しており、141 号との清水町交差点まで 500m の距離にある。

鉄道は小海線（小諸～小淵沢間）が南北に走り、最寄りの八千穂駅より徒歩 20 分、車で 2～3 分である。運行本数は 1 時間に 1～2 本、運行のない時間帯もあり、道路と比べ計画地からみるとややアクセス性に劣る。

図表 計画地周辺の交通

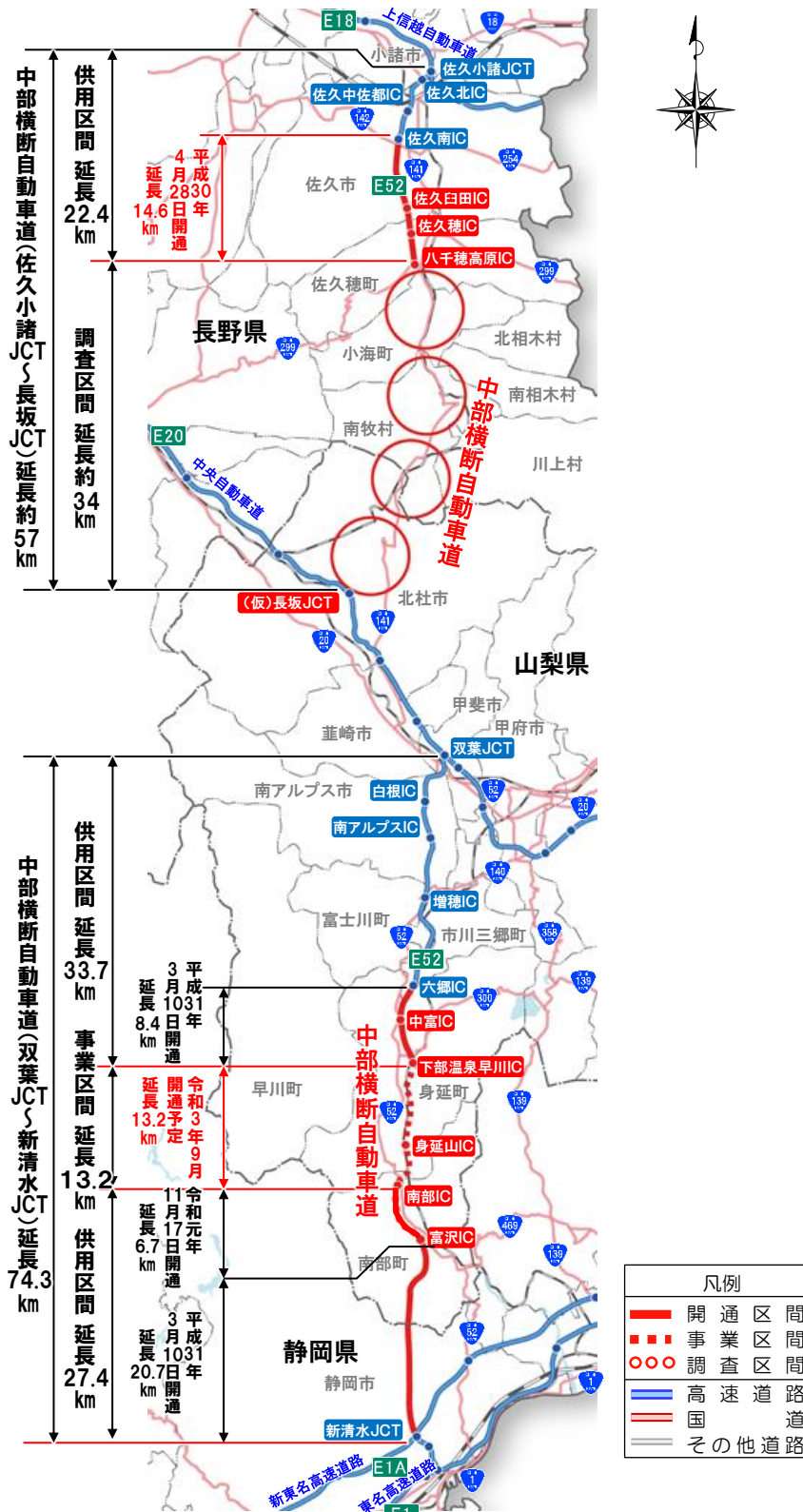


資料：国土地理院「電子国土 Web」

### 3) 将来計画

中部横断自動車道の供用は順次進んでいるが、長野・山梨間については着工未定であり、当面は「八千穂高原 IC」が首都圏方面からの「終点」として位置づけられる。

図表 中部横断自動車道の計画路線図



資料：国土交通省関東地方整備局長野国道事務所

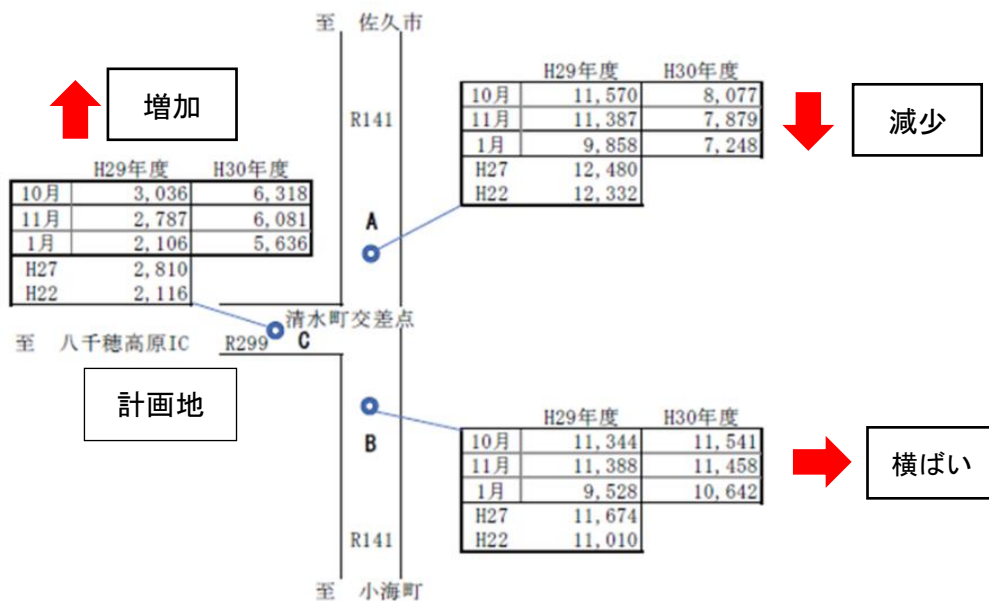


### (3) 自動車類交通量調査

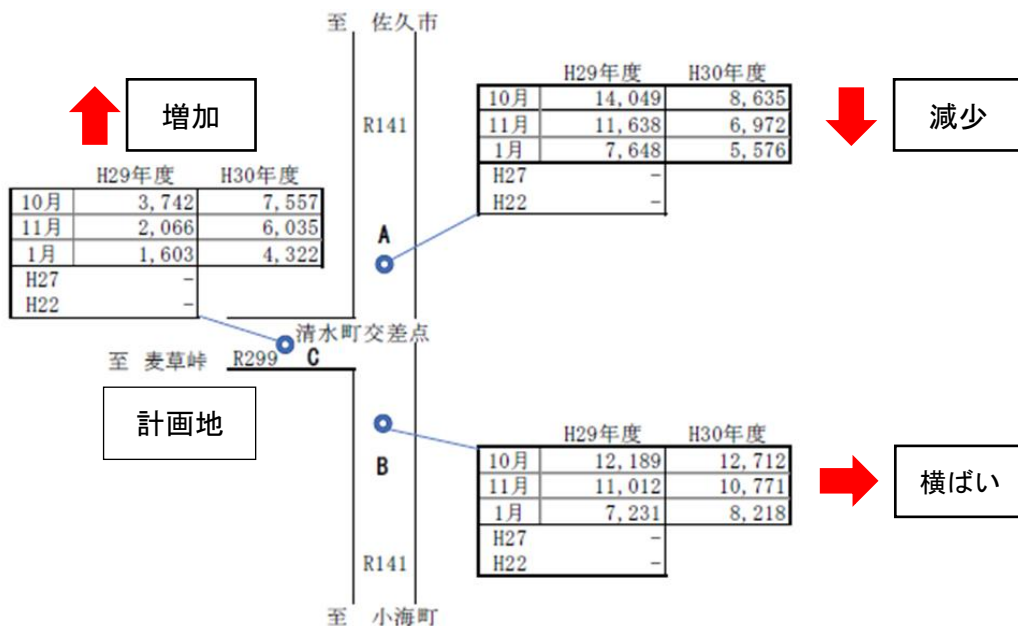
#### 1) 町内交通量の状況

交通量は中部横断自動車道の「八千穂高原 IC」供用（平成 30 年 4 月 28 日）により、町内における交通流動に変化がみられる。先ず、清水町交差点では国道 299 号の断面交通量（注：以下、総交通量）が横断道供用後に倍増し、5,600～6,300 台/12 時間となった。一方、141 号側は減少している。ただし、両地点合計ではほぼ同量であり、横断道供用により総交通量の分散化がみられる。また、国道 141 号小海方向からの総交通量は変わっておらず、同交差点の総交通量合計は平成 22 年以降ほぼ同じである。

図表 清水町交差点の総交通量（平日）



図表 清水町交差点の総交通量（休日）

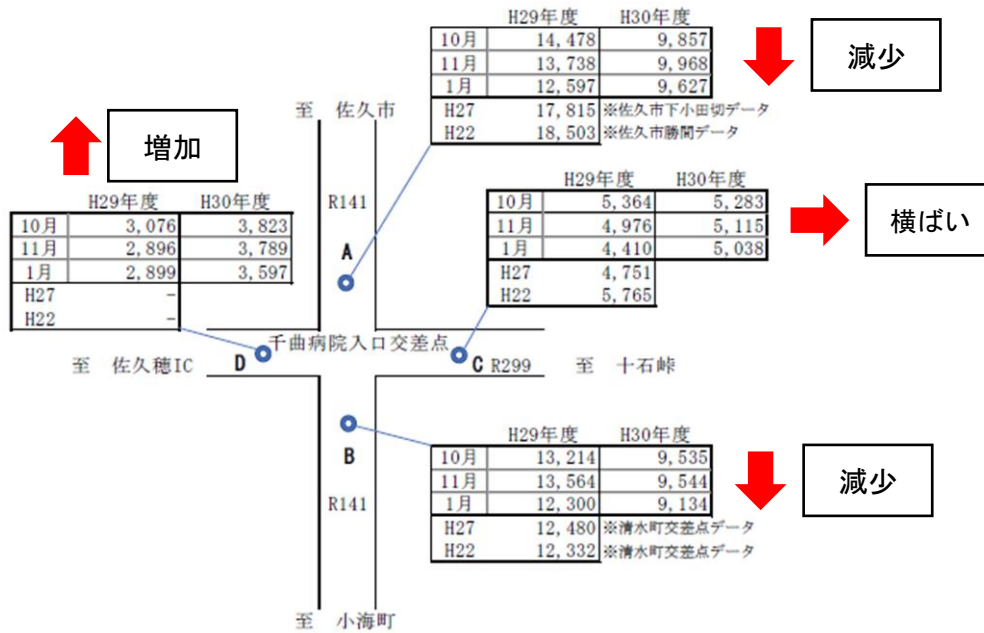


(注) 断面交通量：道路を通行する車両（往復）の交通量を意味する

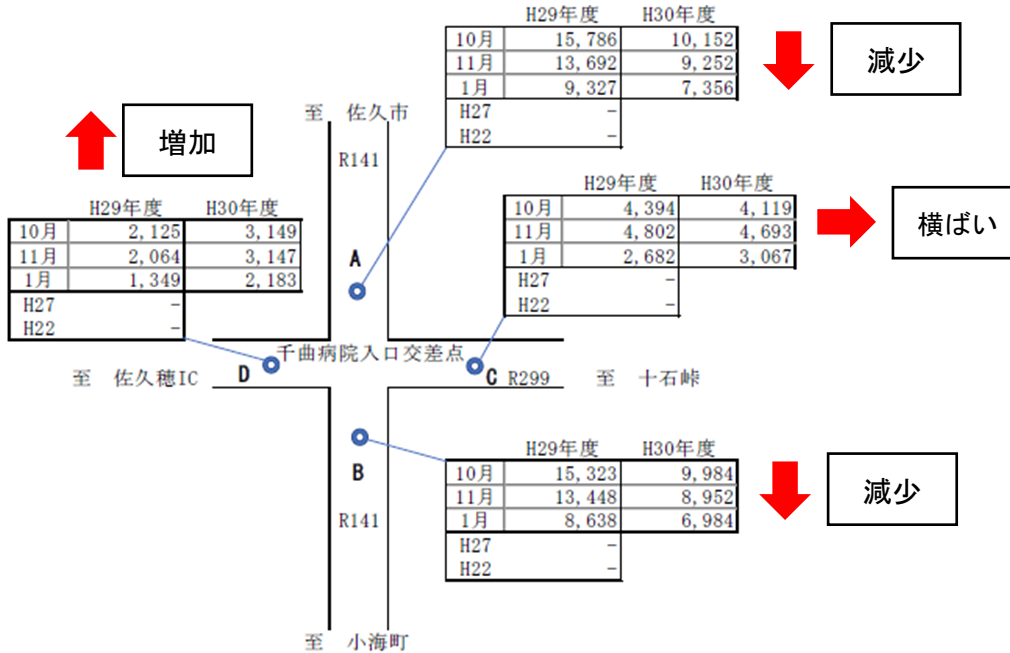
資料：「平成 30 年度 佐久穂町交通量調査業務委託報告書」（以下、この項同じ）

「佐久穂 IC」供用後の千曲病院入口交差点でも国道 141 号における総交通量が減少し、「佐久穂 IC」方面へ分散している。

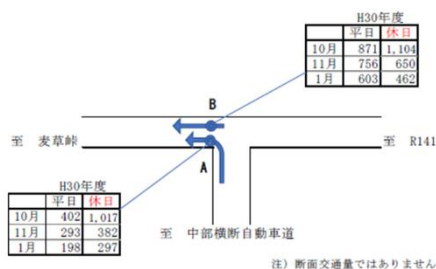
図表 千曲病院入口交差点の総交通量（平日）



図表 千曲病院入口交差点の総交通量（休日）



図表 八千穂高原 IC 交差点の交通量（平・休日）



次に県外ナンバー混入率をみると、清水町交差点は平日 10~20%、休日 15~40%で、特に計画地側（C：麦草峠側）で比率が高い。

また、計画地側では IC 供用後上昇しており、観光客等の通行が多いことを示している。一方、千曲病院入口交差点ではいずれの地点も比率は低下している。

観測地点： 清水町交差点

平日交通量

評価断面	10月		11月		1月		
	H29	H30	H29	H30	H29	H30	
A:国道141号佐久市側	18.5	13.2	15.1	11.7	11.1	7.0	減少
B:国道141号小海町側	18.2	17.9	15.9	16.2	11.0	10.4	
C:国道299号麦草峠側	13.8	20.3	12.8	18.1	6.1	12.2	

休日交通量

評価断面	10月		11月		1月		
	H29	H30	H29	H30	H29	H30	
A:国道141号佐久市側	35.5	33.3	31.7	21.4	15.2	11.8	減少
B:国道141号小海町側	34.8	38.6	31.8	28.8	16.2	18.8	
C:国道299号麦草峠側	32.0	40.8	22.1	33.2	8.4	24.7	増加

観測地点： 千曲病院入口交差点

平日交通量

評価断面	10月		11月		1月		
	H29	H30	H29	H30	H29	H30	
A:国道141号佐久市側	14.5	10.1	12.6	8.7	7.6	4.8	減少
B:国道141号小海町側	16.2	10.9	13.0	9.5	7.9	5.5	
C:国道299号十石峠側	4.8	4.6	4.7	3.8	2.3	2.6	
D:町道千曲病院側	3.5	3.8	2.5	3.2	0.9	1.9	横ばい

休日交通量

評価断面	10月		11月		1月		
	H29	H30	H29	H30	H29	H30	
A:国道141号佐久市側	30.9	27.0	26.6	16.3	9.4	8.2	減少
B:国道141号小海町側	32.6	28.0	27.0	17.1	10.3	8.6	
C:国道299号十石峠側	12.0	10.6	7.4	6.2	2.0	2.6	
D:町道千曲病院側	4.9	9.7	5.0	5.7	1.1	4.1	

大型車混入率は清水町交差点で平日 10~20%、休日 3~6%、千曲病院入口交差点で平日 10%弱、休日 2~3%前後である。

IC 供用後では計画地側（C：麦草峠側）等で増えているが理由は不明である。

観測地点： 清水町交差点

平日交通量

評価断面	10月		11月		1月	
	H29	H30	H29	H30	H29	H30
A: 国道141号佐久市側	13.4	9.9	12.9	8.9	13.8	9.6
B: 国道141号小海町側	16.6	13.9	16.6	13.6	13.8	16.3
C: 国道299号麦草峠側	20.9	17.0	25.6	17.8	12.5	22.0

休日交通量

評価断面	10月		11月		1月	
	H29	H30	H29	H30	H29	H30
A: 国道141号佐久市側	3.5	3.3	4.4	3.7	6.2	2.4
B: 国道141号小海町側	3.7	5.0	4.5	5.3	6.9	3.0
C: 国道299号麦草峠側	3.5	6.1	4.2	6.5	7.1	3.4

増加

減少

観測地点： 千曲病院入口交差点

平日交通量

評価断面	10月		11月		1月	
	H29	H30	H29	H30	H29	H30
A: 国道141号佐久市側	13.2	7.8	11.7	7.5	13.0	6.7
B: 国道141号小海町側	13.5	8.7	11.8	8.4	11.8	8.3
C: 国道299号十石峠側	9.4	9.6	10.4	7.7	12.5	7.9
D: 町道千曲病院側	8.6	8.3	10.0	8.3	17.0	7.0

減少

休日交通量

評価断面	10月		11月		1月	
	H29	H30	H29	H30	H29	H30
A: 国道141号佐久市側	3.0	2.4	3.5	2.0	5.5	2.0
B: 国道141号小海町側	3.5	3.0	3.7	2.4	6.0	2.1
C: 国道299号十石峠側	2.9	2.7	1.9	1.9	3.0	1.6
D: 町道千曲病院側	0.9	3.0	2.0	1.9	3.6	2.2

減少

## 2) 計画地前面道路の状況

計画地前面（国道299号）を通過する総交通量は最大で8,217台（平成30年10月7日：休日）、最小で4,328台（31年1月13日：休日）であった。

最大日は白駒の池が紅葉の見ごろを迎える時期の日曜日である。

なお、昼夜率（12時間交通量を1とした場合の24時間交通量指数）は1.14（平成27年度全国道路・街路交通情勢調査/一般交通量調査/長野県）であるので、下表に乗じると24時間交通量が推計できる。ちなみに最大日で9,367台（8,217台×1.14）となる。

図表 清水交差点の車種別総交通量（平成30年度調査）

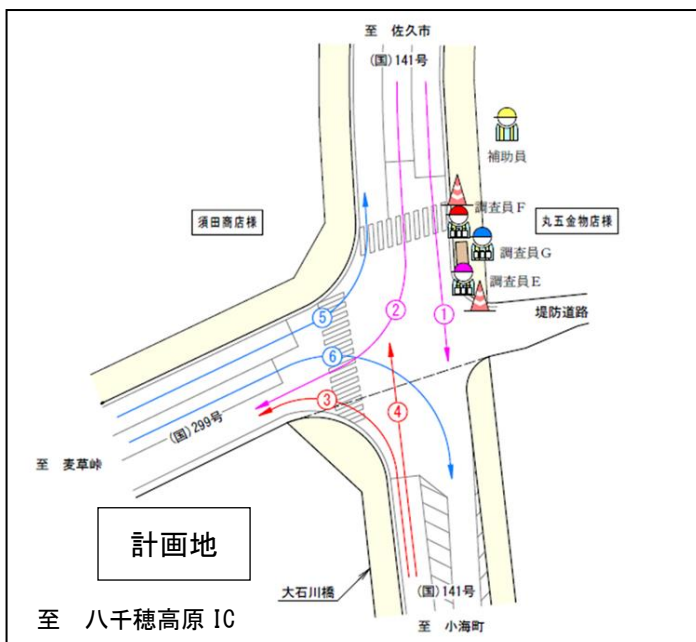
（台）

観測日	10月7日 （休日）			10月18日 （平日）			11月4日 （休日）		
	大型車	小型車	二輪車類	大型車	小型車	二輪車類	大型車	小型車	二輪車類
① 国道141号 小海町方向直進	112	3,155	184	317	2,942	19	117	2,759	82
② 国道141号 麦草峠方向右折	21	852	124	74	662	4	23	515	43
③ 国道141号 麦草峠方向左折	168	2,727	243	467	2,072	26	186	2,400	134
④ 国道141号 佐久市方向直進	122	3,506	238	346	3,045	12	103	2,875	65
⑤ 国道299号 佐久市方向左折	34	833	84	59	632	4	15	565	50
⑥ 国道299号 小海町方向右折	235	2,687	209	473	1,879	15	170	2,161	101
計画地を通過する車種別総交通量(注1)	458	7,099	660	1,073	5,245	49	394	5,641	328
総交通量(12時間)	8,217 <b>最大</b>			6,367			6,363		
同24時間換算(昼夜率=1.14)(注2)	9,367			7,258			7,254		

観測日	11月8日 （平日）			1月13日 （休日）			1月17日 （平日）		
	大型車	小型車	二輪車類	大型車	小型車	二輪車類	大型車	小型車	二輪車類
① 国道141号 小海町方向直進	294	2,959	11	68	2,265	4	310	2,716	3
② 国道141号 麦草峠方向右折	65	584	3	11	405	3	49	507	1
③ 国道141号 麦草峠方向左折	486	1,982	18	71	1,777	1	579	1,788	2
④ 国道141号 佐久市方向直進	296	3,079	16	49	2,354	3	287	2,814	3
⑤ 国道299号 佐久市方向左折	50	552	9	6	418	1	52	513	2
⑥ 国道299号 小海町方向右折	480	1,882	12	60	1,574	1	559	1,589	1
計画地を通過する車種別総交通量(注1)	1,081	5,000	42	148	4,174	6	1,239	4,397	6
総交通量(12時間)	6,123			4,328 <b>最小</b>			5,642		
同24時間換算(昼夜率=1.14)(注2)	6,980			4,934			6,432		

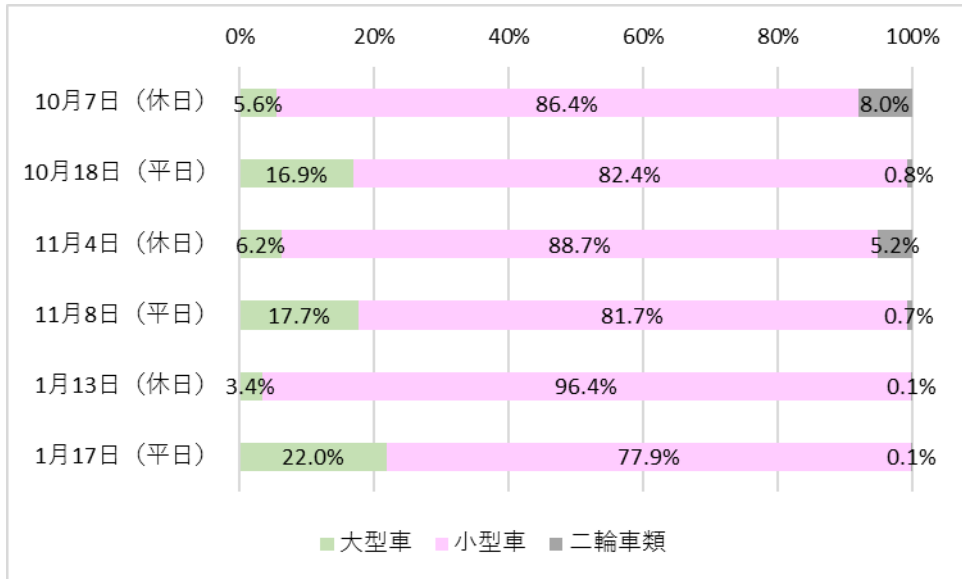
（注1）計画地を通過する車種別総交通量は②③⑤⑥の合算値

（注2）同24時間換算=総交通量（12時間）×昼夜率



車種別では小型車が概ね8割以上を占めている。

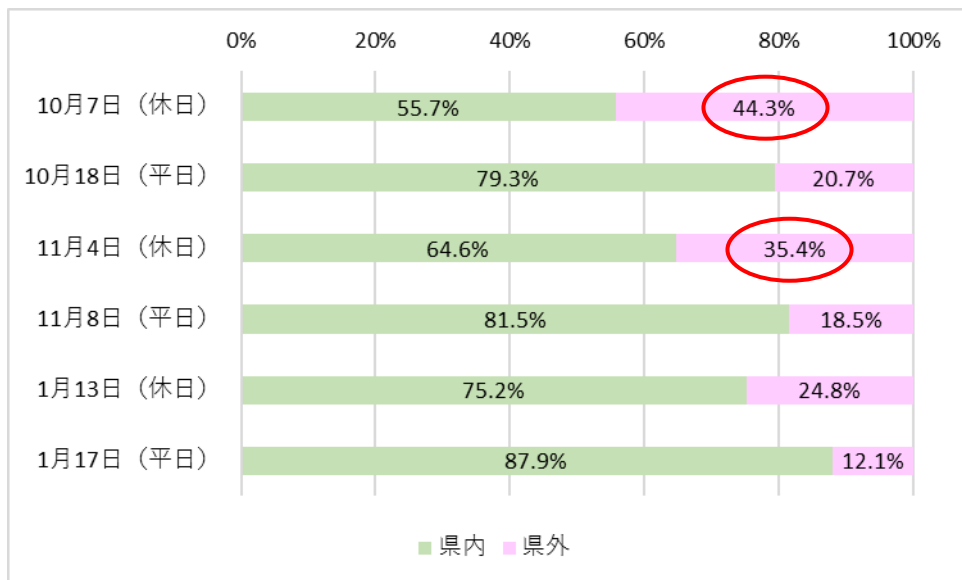
図表 清水交差点の車種別総交通量（平成30年度調査）



(注1) 総交通量（12時間）に対する比率である

車ナンバー別でみると、観光シーズンの休日（10/7、11/4）は県外ナンバー比率が高くなっている。一方、平日及びオフシーズン（冬期等）は県内ナンバーが多い。（県内ナンバーの中にも観光客は含まれている）

図表 清水交差点の県内・県外別総交通量（平成30年度調査）



(注1) 総交通量（12時間）に対する比率である

図表 清水交差点の県内・県外別総交通量（平成30年度調査）

（台）

観測日	10月7日 （休日）			10月18日 （平日）			11月4日 （休日）		
	県内	県外	計	県内	県外	計	県内	県外	計
観測方向									
① 国道141号 小海町方向直進	2,207	1,244	3,451	2,830	448	3,278	2,281	677	2,958
② 国道141号 麦草峠方向右折	595	402	997	663	77	740	461	120	581
③ 国道141号 麦草峠方向左折	1,784	1,354	3,138	1,998	567	2,565	1,703	1,017	2,720
④ 国道141号 佐久市方向直進	2,400	1,466	3,866	2,914	489	3,403	2,310	733	3,043
⑤ 国道299号 佐久市方向左折	642	309	951	630	65	695	474	156	630
⑥ 国道299号 小海町方向右折	1,555	1,576	3,131	1,761	606	2,367	1,473	959	2,432

計画地を通過する車種別総交通量(注)	4,576	3,641	8,217	5,052	1,315	6,367	4,111	2,252	6,363
県内・県外比率	55.7%	44.3%	100.0%	79.3%	20.7%	100.0%	64.6%	35.4%	100.0%

観測日	11月8日 （平日）			1月13日 （休日）			1月17日 （平日）		
	県内	県外	計	県内	県外	計	県内	県外	計
観測方向									
① 国道141号 小海町方向直進	2,855	409	3,264	2,101	236	2,337	2,789	240	3,029
② 国道141号 麦草峠方向右折	608	44	652	366	53	419	536	21	557
③ 国道141号 麦草峠方向左折	2,017	469	2,486	1,311	538	1,849	2,074	295	2,369
④ 国道141号 佐久市方向直進	2,943	448	3,391	2,071	335	2,406	2,877	227	3,104
⑤ 国道299号 佐久市方向左折	567	44	611	383	42	425	543	24	567
⑥ 国道299号 小海町方向右折	1,801	573	2,374	1,195	440	1,635	1,804	345	2,149

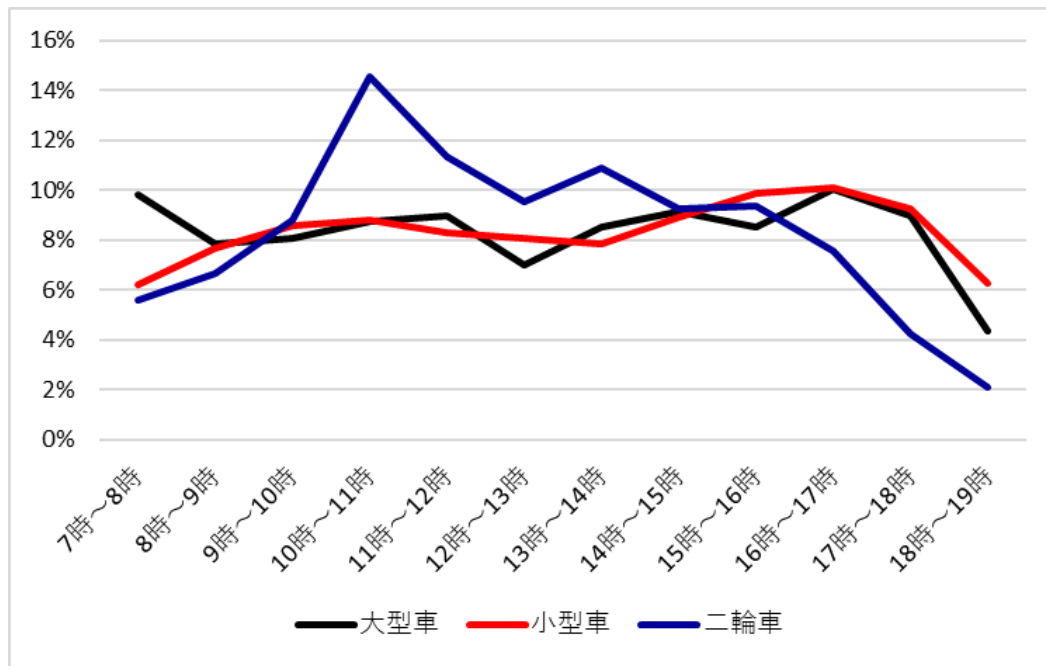
計画地を通過する車種別総交通量(注)	4,993	1,130	6,123	3,255	1,073	4,328	4,957	685	5,642
県内・県外比率	81.5%	18.5%	100.0%	75.2%	24.8%	100.0%	87.9%	12.1%	100.0%

（注1）計画地を通過する車種別総交通量は②③⑤⑥の合算値

（注2）総交通量は12時間である

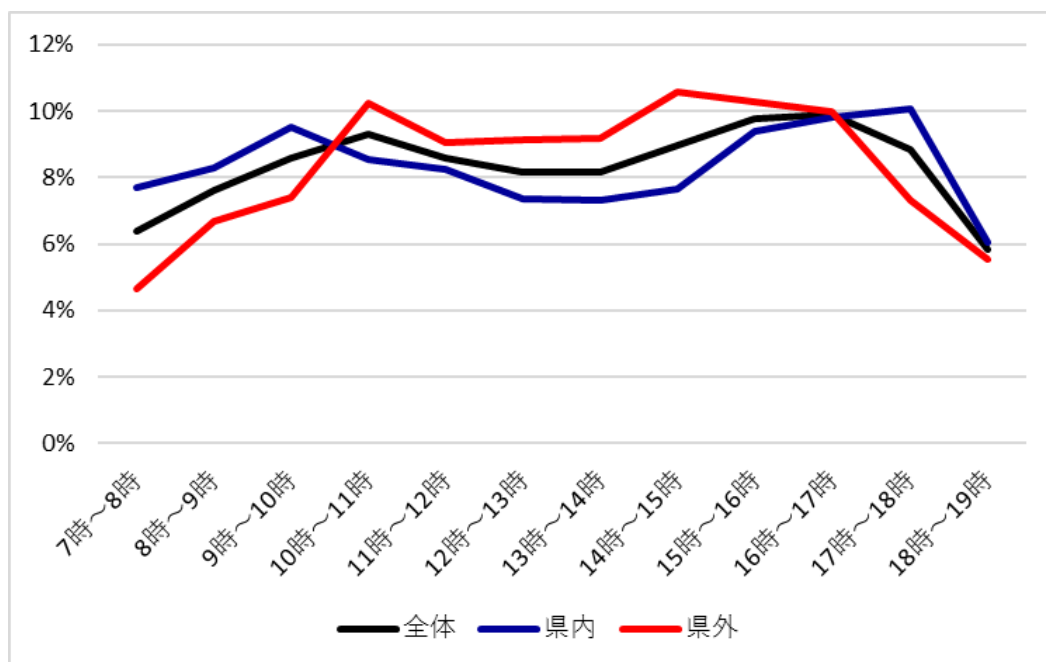
時間帯別の総交通量を最大日（平成30年10月7日、日曜日：観光シーズン）で見ると、車種別では大型車は早朝（7時～8時）及び16時以降でやや多く、小型車は午後（13時～14時）から夕方（16時～17時）にかけて多い。

図表 時間帯別の総交通量（車種別）



県外ナンバー交通量が多いのは10時～11時及び14時～17時で、八千穂高原方面の行き帰りの時間に一致すると思われる。

図表 時間帯別の総交通量（県内・県外ナンバー別）





### 3) 交通量についての現況整理及び考察

#### [現況整理]

#### ①交通量の分散化→計画地前面道路（国道 299 号）の利用が増加

同町内を走るふたつの幹線道路（国道 141 号、299 号）の交通量は中部横断自動車道（佐久南 IC～八千穂高原 IC）供用により変化がみられる。このうち 141 号では佐久穂市街地と佐久市方面間の交通量が減少し、横断道を利用する傾向が強くなっている。

一方で新たに設置された IC（佐久穂および八千穂高原）から市街地への交通量が増える結果となっている（前面道路では最大で 4,000 台/12 時間の増加）。

また、県外ナンバーが計画地前面で供用前より上昇しており、観光客等の通行が増えていくものと考えられる。特に白駒の池等の観光地への訪問が増える 10～11 月の休日は 4 割前後が県外ナンバーである。

前面道路での大型車の混入率は平日で 10～20%、休日で 3～6%、千曲病院入口交差点よりも高く、小型車同様、横断道利用の傾向が顕れている。

#### ②前面道路の交通量は倍増→約 9,300 台（最大日の 24 時間推計）

前面道路の交通量は最大日で 8,217 台、内訳は大型車 458 台、小型車 7,099 台、二輪車 660 台である。交通量調査は 12 時間で行われるため、これに昼夜率 1.14（12 時間交通量を 1 とした場合の 24 時間交通量指数）を乗じると 9,367 台が通行していることになる（注：昼夜率は平成 27 年度全国道路・街路交通情勢調査/一般交通量調査/長野県より）。

また、冬期（1 月）は 4.3～5.6 千台/12 時間、4.9～6.4 千台/24 時間であり、最大日の 50～70%である。

#### [考察]

横断道利用の傾向が強くなっており、従来交通量が集中していた国道 141 号より前面道路への分散がみられ、計画地付近の交通量は増加傾向にある。

IC 供用から 2 年未満であり、今後認知度が高まれば、より一層の利用（交通量）の増加が見込まれる。

中でも県外客の利用が増えており、八千穂高原方面への行き復りの休憩地としての機能が求められる。

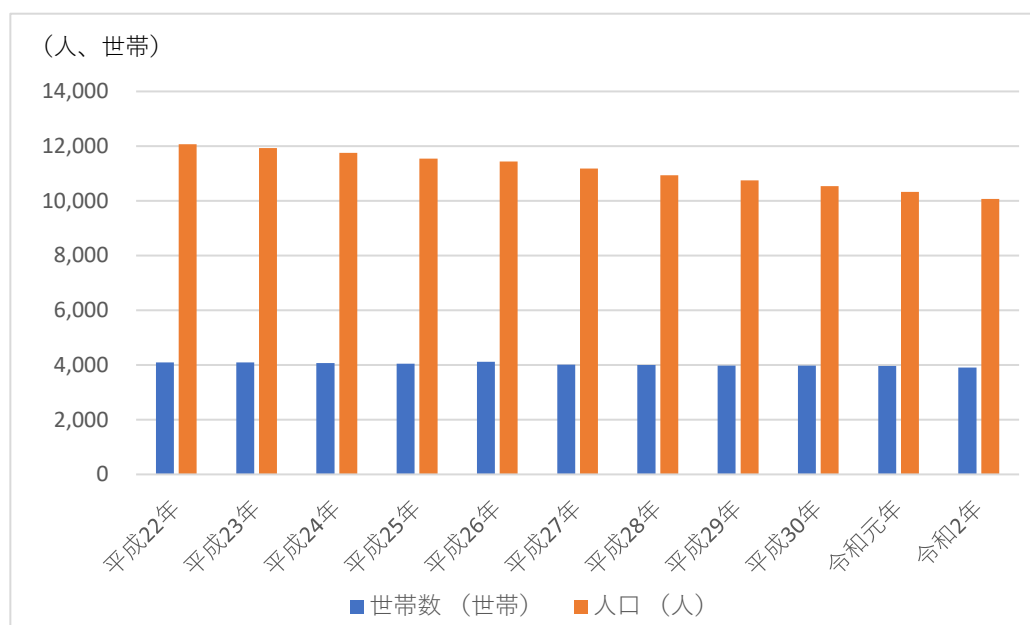
## 2. 計画地の市場環境条件

### (1) 人口動向

#### 1) 人口及び世帯数の推移

同町の人口は年率2%前後の減少傾向にあり、また、1世帯当たり人員及び世帯数も減っており、地域における需要の減衰が進んでいる。

図表 人口、世帯数の推移



	世帯数 (世帯)	人口 (人)	人口 増減率	1世帯人口 (人/世帯)
平成22年	4,092	12,069	-1.93%	2.95
平成23年	4,092	11,937	-1.09%	2.92
平成24年	4,068	11,762	-1.47%	2.89
平成25年	4,042	11,548	-1.82%	2.86
平成26年	4,116	11,439	-0.94%	2.78
平成27年	4,014	11,186	-2.21%	2.79
平成28年	3,998	10,940	-2.20%	2.74
平成29年	3,978	10,748	-1.76%	2.70
平成30年	3,973	10,536	-1.97%	2.65
令和元年	3,960	10,334	-1.68%	2.62
令和2年	3,910	10,068	-2.57%	2.57

(注1) 平成29年までは佐久穂町資料

(注2) 平成30年以降は長野県毎月人口異動調査結果

(注3) 各年10月1日現在の値

## 2) 年齢別人口

年齢3区分別人口では65歳以上の比率が上昇しており、平成29年で37.4%に達している。

平成27年の高齢化率（65歳以上人口の割合）は35.0%であり、全国平均の27.7%を7ポイント以上上回っている。

図表 年齢3区分別人口及び比率

	平成17年		平成22年		平成27年		令和元年	
	人口(人)	同比率	人口(人)	同比率	人口(人)	同比率	人口(人)	同比率
0~14歳	1,805	13.8%	1,462	12.0%	1,250	11.0%	1,088	10.5%
15~64歳	7,410	56.7%	6,809	56.1%	6,114	54.0%	5,255	50.8%
65歳以上	3,855	29.5%	3,869	31.9%	3,957	35.0%	4,007	38.7%
総数	13,070	100.0%	12,140	100.0%	11,321	100.0%	10,350	100.0%

(注)総数は年齢不詳を除く

資料：「令和元年版 佐久穂町統計書」

## 3) 産業別就業者数

産業別就業者数では第1次産業（主に農業）及び第2次産業が減少し、サービス業等の第3次産業が増えている。

図表 産業別就業者数及び比率

産業別就業者数										各年10月1日現在
	収業人口	第1次産業		第2次産業		第3次産業			分類不能	
		就業者数	うち農業	就業者数	うち製造業	就業者数	うち卸小売業	うちサービス業		
平成17年	6,454	1,135	1,099	2,081	1,323	3,238	844	670	0	
平成22年	5,958	968	908	1,767	1,130	3,204	774	893	19	
平成27年	5,728	929	875	1,595	990	3,158	661	983	46	

同比率									
	収業人口	第1次産業		第2次産業		第3次産業			分類不能
		就業者数	うち農業	就業者数	うち製造業	就業者数	うち卸小売業	うちサービス業	
平成17年	100.0%	17.6%	17.0%	32.2%	20.5%	50.2%	13.1%	10.4%	0.0%
平成22年	100.0%	16.2%	15.2%	29.7%	19.0%	53.8%	13.0%	15.0%	0.3%
平成27年	100.0%	16.2%	15.3%	27.8%	17.3%	55.1%	11.5%	17.2%	0.8%

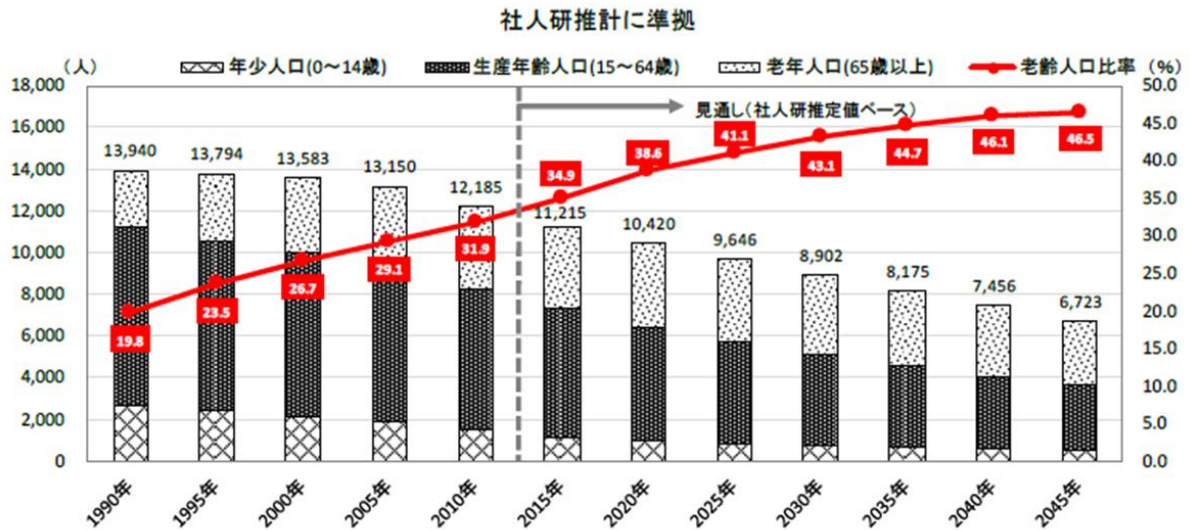
資料：「令和元年版 佐久穂町統計書」

#### 4) 将来人口

将来人口は 2025（令和 7）年に 1 万人を割り、その後減少傾向が続く。

また、高齢化率（図表では老齢人口比率）は 25 年に 40% を超えると予測されている。

図表 将来推計人口



出典:2010 年まで長野県毎月人口異動調査(各年 4 月 1 日)

※2004 年までは佐久町、八千穂村の合算値

国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』2013 年 3 月をベースに再計算

資料：「佐久穂町人口ビジョン」（平成 28 年 3 月）

5) 商圏人口

「道の駅」の商圏をショッピングセンター並みの車で30分圏と想定した場合、計画地及び近隣2か所の「道の駅」における人口を比べると、佐久市内にある近隣施設より計画地は少ない状況にある。また、2施設は計画地30分圏内に所在し、商圏が重なっている。

図表 計画地の時間距離圏人口

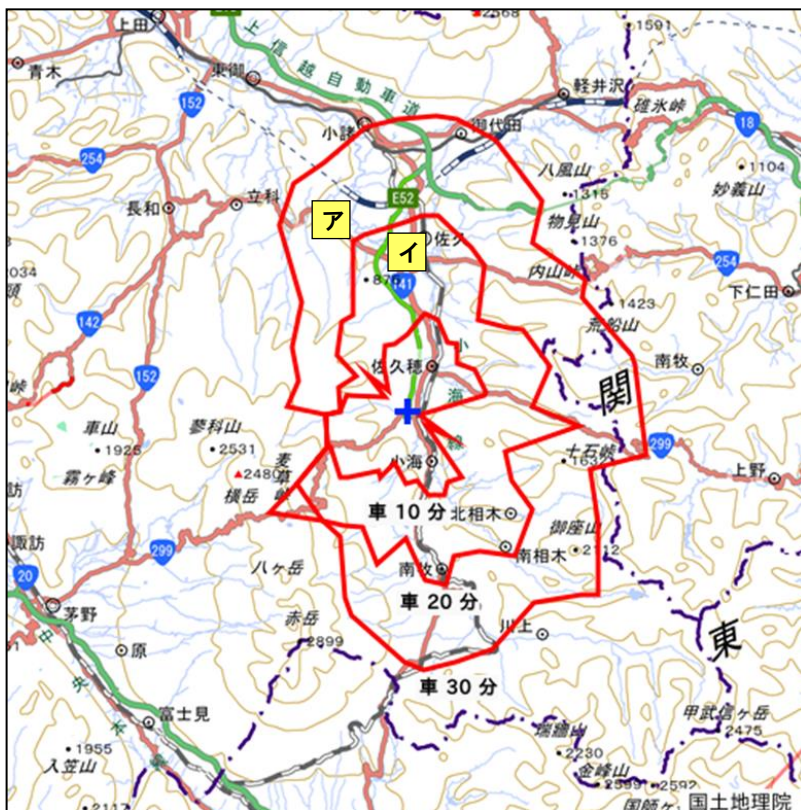
データ名	人口(人)				
	10分圏	20分圏	30分圏	佐久穂町	長野県
人口総数	15,077	62,977	147,554	11,186	2,098,804
男人口	7,240	30,352	72,084	5,392	1,022,129
女人口	7,836	32,624	75,469	5,794	1,076,675

図表 ほっとば〜く浅科の時間距離圏人口

データ名	人口				
	10分圏	20分圏	30分圏	佐久市	長野県
人口総数	30,084	145,563	220,314	99,368	2,098,804
男人口	14,704	70,923	107,465	48,454	1,022,129
女人口	15,380	74,640	112,850	50,914	1,076,675

図表 ヘルシーテラス佐久南の時間距離圏人口

データ名	人口(人)				
	10分圏	20分圏	30分圏	佐久市	長野県
人口総数	74,815	168,749	246,098	99,368	2,098,804
男人口	36,343	82,231	119,988	48,454	1,022,129
女人口	38,471	86,518	126,111	50,914	1,076,675



(注) + 計画地 ア ほっとば〜く浅科 イ ヘルシーテラス佐久南

資料: 「地図で見る統計 (jSTAT MAP)」 (平成 27 年国勢調査)

(2) 産業、特産品等

1) 農林水産業

総世帯のうち3割強が農家であり、比較的農業が盛んな町である。このうち販売農家数が4割を占めている。販売農産物として多いのは稲作で、その他、花き・花木、露地野菜、果樹類等が多い。

林業ではカラマツを中心とした木材の産地となっている。

水産業は千曲川水系の川魚や信州サーモン（養殖）等の資源がある。

図表 農家数と農家人口及び経営耕地面積

(平成27年2月1日現在)

年次	総世帯数	総農家数		農家率	総人口	経営耕地 総面積	田		畑		摘要
		販売農家数	自給的農家数				農家数	面積	農家数	面積	
平成27年 佐久穂町	戸 4,088	戸 1,314	戸 568	% 32.1	人 11,369	ha 626	戸 532	ha 334	戸 481	ha 251	

資料:農林業センサス、長野県統計書。(総世帯数および総人口は同時点の「毎月人口異動調査」による)

資料:「令和元年版佐久穂町統計書」

図表 販売農産物の部門別農家数

(平成27年2月1日現在)

年次 地区別	農産物		雑穀 いも類 豆類	工業 農作物	露地野菜	施設野菜	果樹類	花き 花木	その他の 作物	酪農	肉用牛	養豚	養鶏	その他の 畜産	養蚕
	販売	稲													
平成27年 佐久穂町	戸 471	戸 203	戸 1	戸 -	戸 65	戸 3	戸 37	戸 67	戸 4	戸 6	戸 1	戸 3	戸 -	戸 1	戸 -

資料:2015農林業センサス

資料:「令和元年版佐久穂町統計書」

## 2) 事業所、商工業等

事業所数、従業者数ともに減少傾向にある。

卸売業は増加、小売業は減少傾向にあり、工業は従業者 19 人以下の中小事業所が7割を占めている。

図表 事業所、商業の状況

事業所			
年次	事業所数	従業者数	摘要
平成21年(7/1)	621	3,073	基礎調査
平成24年(2/1)	544	2,832	活動調査
平成26年(7/1)	525	2,923	基礎調査
平成28年(7/1)	505	2,675	活動調査

資料:経済センサス

年次	総数			卸売業			小売業			摘要
	商店数	従業者数	年間商品販売額	商店数	従業者数	年間商品販売額	商店数	従業者数	年間商品販売額	
平成16年	113	421	508,167	7	16	18,219	106	405	489,948	
佐久町	58	260	333,193	4	15	24,100	54	245	309,093	
八千穂村	171	681	841,360	11	31	42,319	160	650	799,041	
計										
平成26年	92	452	753,000	10	46	697	82	406	683,300	
佐久穂町(7/1)										
平成28年	87	385	663,157	11	48	112,063	76	337	551,094	
佐久穂町(7/1)										

資料:H16, H26は商業統計調査報告、H28は経済センサス活動調査

資料:「令和元年版佐久穂町統計書」

### 3) 町の特産品

特産品として、花き類、果樹、農産物加工品、その他がある。

#### ①花き類

キクやバラ、アルストロメリアなどの花卉栽培が盛んである。主にハウス栽培が行われ、夏から秋にかけてはカーネーションも盛んに出荷され、同町を代表する産品となっている。

#### ②果樹

りんごやプルーンの栽培が盛んである。中でもプルーンは鉄分が豊富で栄養価も高く、太陽の果実と呼ばれている。プルーンには十数種類もの品種があり、特に「サンプルーン」は甘みも強く、しっかりとした果肉で歯ごたえもあり、その他、ブルーベリー等が栽培・販売されている。

#### ③農産物加工品

同町で唯一の酒蔵「黒澤酒造(株)」では江戸期より酒造りを行っており、千曲川の伏流水、軟水で柔らかい美味しい水と長野県産の美山錦と佐久平産の「ひとごち」の酒造好適米を使用した地酒の製造を行っている。

また、味噌、醤油等の発酵食品や白樺樹液、肉加工品（きたやつハム）、信州野沢菜漬け、キノコ（クリタケ、天然マツタケ、ブナシメジ、エノキ等）、装飾用建築材に利用される鉄平石（安山岩）等がある。

資料：佐久穂町商工会HPを参照



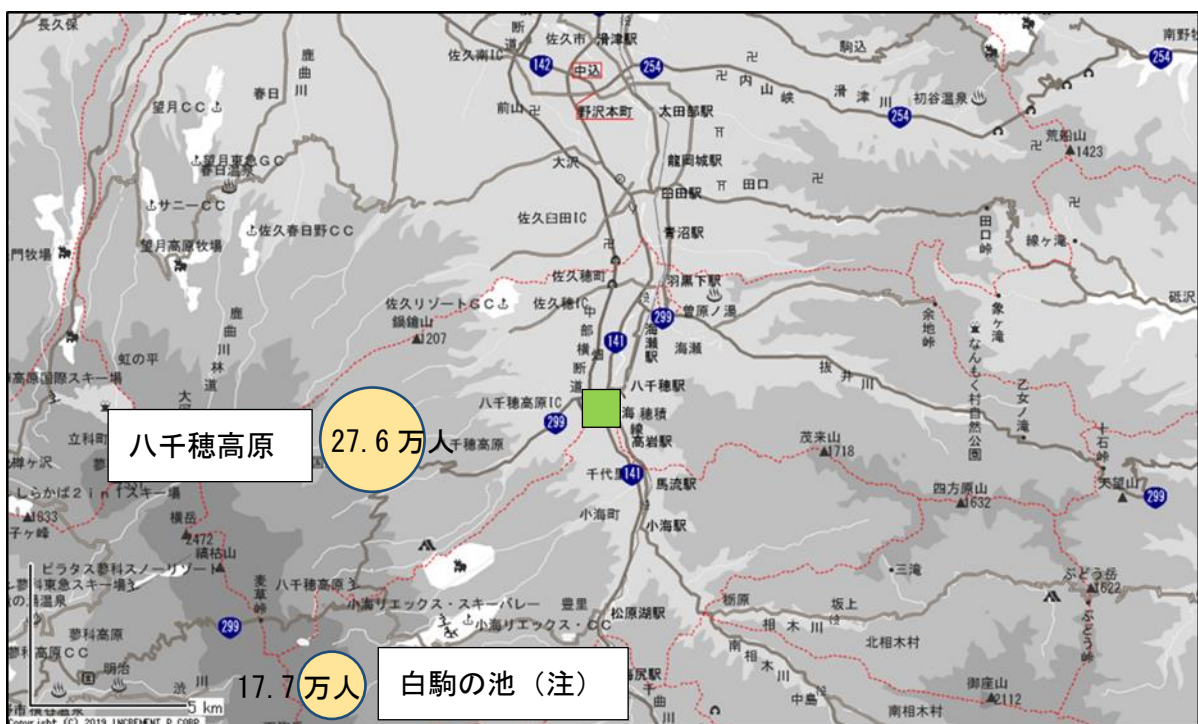
### (3) 観光客数

#### 1) 主な観光地及び観光客数（平成 30 年）

主な観光地の観光客数は八千穂高原（276,000 人）及び白駒の池（177,105 人）が挙げられる。

前者には八千穂の里（4,300 人）、駒出池キャンプ場（10,417 人）、八千穂レイク管理釣り場（4,147 人）、八千穂高原スキー場（24,400 人）等があり、その他、同町東側の十石峠・古谷溪谷（3,500 人、平成 28 年）がある。

図表 町内の主要観光地



(注) 白駒池駐車場の台数を 1 台当たり大型車 40 人、中型車（マイクロバス）25 人、普通車 3 人、二輪車 1 人で計算（佐久穂町による）。

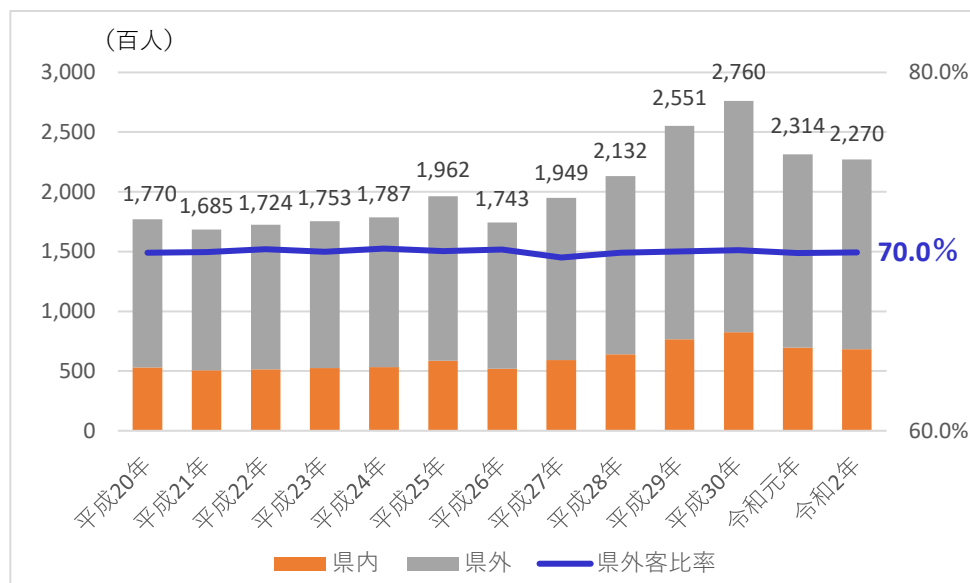
■ 計画地  
資料：佐久穂町

## 2) 観光客数の推移

### ① 県内客及び県外客数の状況

八千穂高原の観光客のうち県外客比率は 70%前後で推移している。同町はじめ周辺及び県内人口が少ないことも影響しているが、むしろ八千穂高原及び白駒の池等の県外からの集客力を有す観光地の存在が大きい。

図表 八千穂高原の県内客・県外客数及び県外客比率

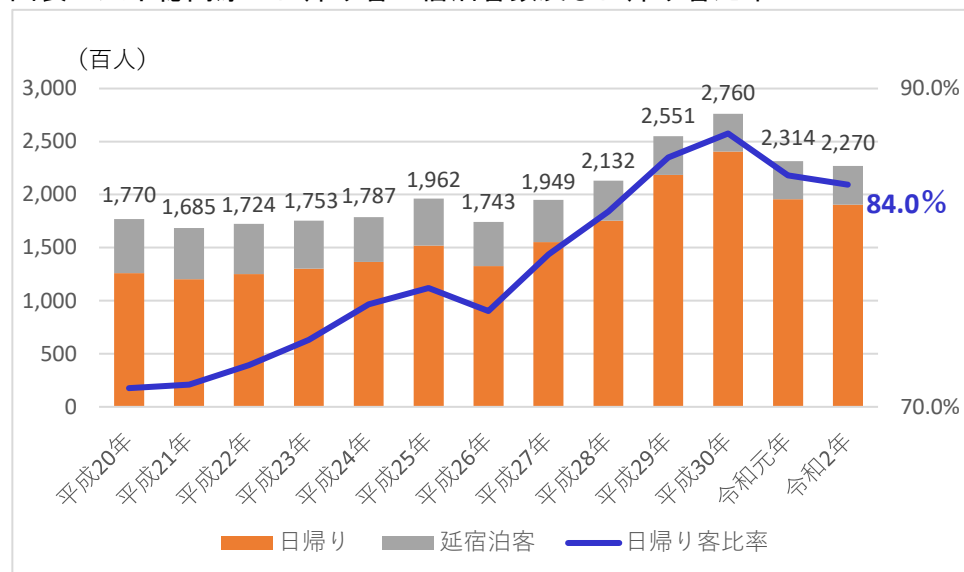


資料：「観光地利用者統計調査」（長野県）

### ② 日帰り客及び延宿泊客数の状況

全体の9割近くが日帰り客（平成30年）であり、中部横断自動車道開通による交通利便性の向上が影響を及ぼしている。

図表 八千穂高原の日帰り客・宿泊客数及び日帰り客比率

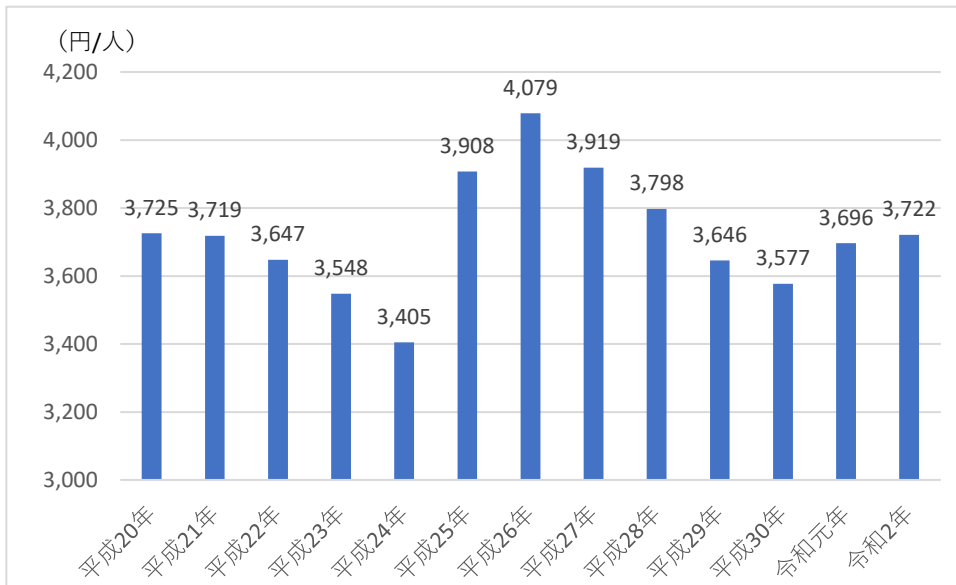


資料：「観光地利用者統計調査」（長野県）

### ③1人当たりの観光消費額

平成26年(4,079円)をピークに令和30年まで低下傾向にあったが、令和元年からは再び上昇の傾向にあり、令和2年で3,722円となっている。

図表 1人当たりの観光消費額



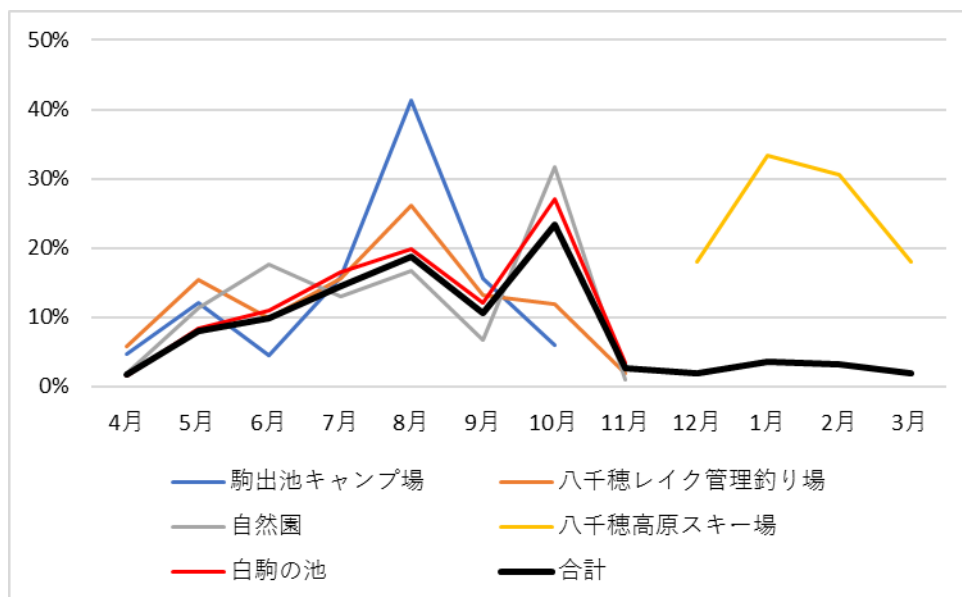
資料：「観光地利用者統計調査」(長野県)

### 3) 月別観光客数

季節による繁閑差があり、夏は駒出池キャンプ場及び八千穂レイク管理釣り場のアウトドア活動、秋は白駒の池及び自然園の自然鑑賞が中心である。

冬期は八千穂高原スキー場を除くと、訪れる観光客が途絶える状態にある。

図表 主要観光地の月別観光客比率(平成30年度)



資料：佐久穂町

#### 4) 広域観光ルート

紅葉シーズンの白駒の池を訪ねるバスツアーが旅行事業者等により企画・運行されているが、中部横断自動車道の八千穂高原 IC 延伸により、ツアールートへの利用も増えている。

首都圏発着のツアーでは軽井沢及び清里を周遊するコースが多数あるが、途中、トイレ休憩箇所がないため、計画地での設置を望む声もある。

図表 首都圏と計画地周辺を回遊する観光ルート



(日帰りバスツアーの例)

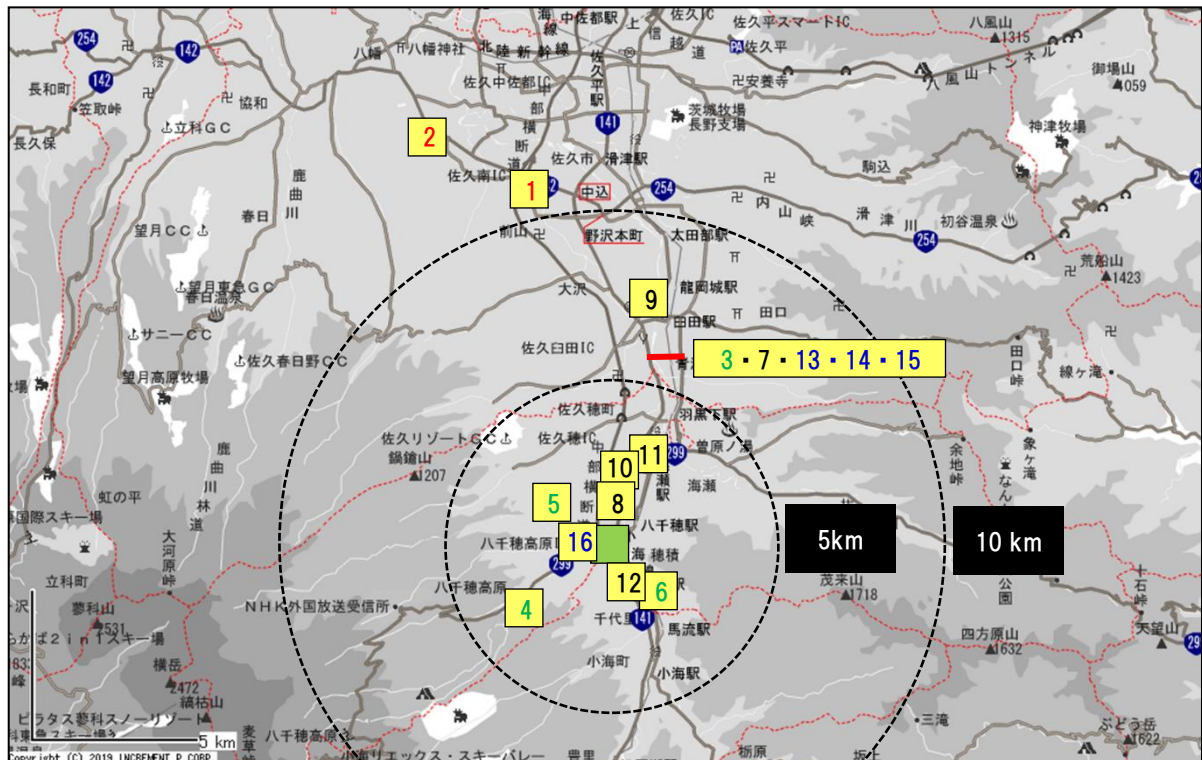
新宿(8:00 発)--清里ハイランドパーク・清里テラス(リフト乗車&自由散策/計 60 分)  
 【10:50 頃着】--苔の森【13:10 頃着】--(徒歩 15 分)--白駒池(自由散策/30 分)--(徒歩 15 分)--苔の森【14:10 頃着】[苔の森~白駒池~苔の森/計 60 分]--旧軽井沢(自由散策/60 分)【15:40 頃着】--新宿(19:40 予定)

資料：大手バスツアー会社の HP

#### (4) 周辺の道の駅及び類似施設等の立地状況

計画地周辺（概ね 10km 圏）には「道の駅」及び農産物等産地直売所が6か所あるほか、これらに類する店舗等が存在する。また、佐久市内には大型ショッピングセンターや各種商業、飲食施設などが集積している。

図表 周辺の道の駅等の立地状況



■ 計画地

- |  |
|--|
| <p><b>【道の駅】</b></p> <p>①ヘルシーテラス佐久南</p> <p>②ほっとば〜く浅科</p> <p><b>【農産物等直売所】</b></p> <p>③まちの駅</p> <p>④やちほ夢の森農産物直売所（週末のみ営業）</p> <p>⑤きたやつハム</p> <p>⑥小海町農産物直売所「プチマルシェこうみ」（長野県地域発元気づくり支援金活用事業を活用）</p> <p><b>【その他商業施設】</b></p> <p>⑦食品スーパー「ツルヤ」</p> <p>⑧JA 佐久浅間女性会やまびこ市</p> <p>⑨同まごころ市</p> <p>⑩セブン-イレブン 佐久穂町店、ユーパレット南佐久店</p> <p>⑪ローソン 佐久穂高野店</p> <p>⑫ローソン・セブンイレブン 小海店</p> <p><b>【飲食施設】</b></p> <p>⑬ガスト</p> <p>⑭キッチンえみゆー</p> <p>⑮モスバーガー</p> <p>⑯ハーモナイズ</p> |
|--|

資料：各種資料より

### 3. 上位計画の整理及び本計画との関連づけ

#### (1) 第2次佐久穂町総合計画（平成29～38年度）

佐久穂町の基本理念は、

『自律し多様なコミュニティが人々の暮らしを支え、挑戦や行動を支援するまち』

と謳われ、町民のつながり（コミュニティ）を重視した考え方を標榜している。

佐久穂町には、各集落における活動や健康管理事業など、先人達が生活の中で培ってきた人と人、世代と世代の「つながりや信頼」、その源泉である多様な「コミュニティ」が今も健在しています。それがこの町の資源であり魅力です。そこで、その「つながりや信頼」を再度、住民と町が力を合わせ磨き上げ、住民と町の協働により、地域の生活基盤や経済を維持・発展させ、将来にわたって持続可能な町の構築を目指します。

計画の体系及び方針は重点戦略（A・B・C）とこれらを支える基本戦略から構成されている。また、挑戦や行動を掲げ、住民と町の協働による持続可能な町の構築を目指している。

図表 計画の基本構想及び基本計画

## 2 計画の体系と方針

### (1) 計画の体系



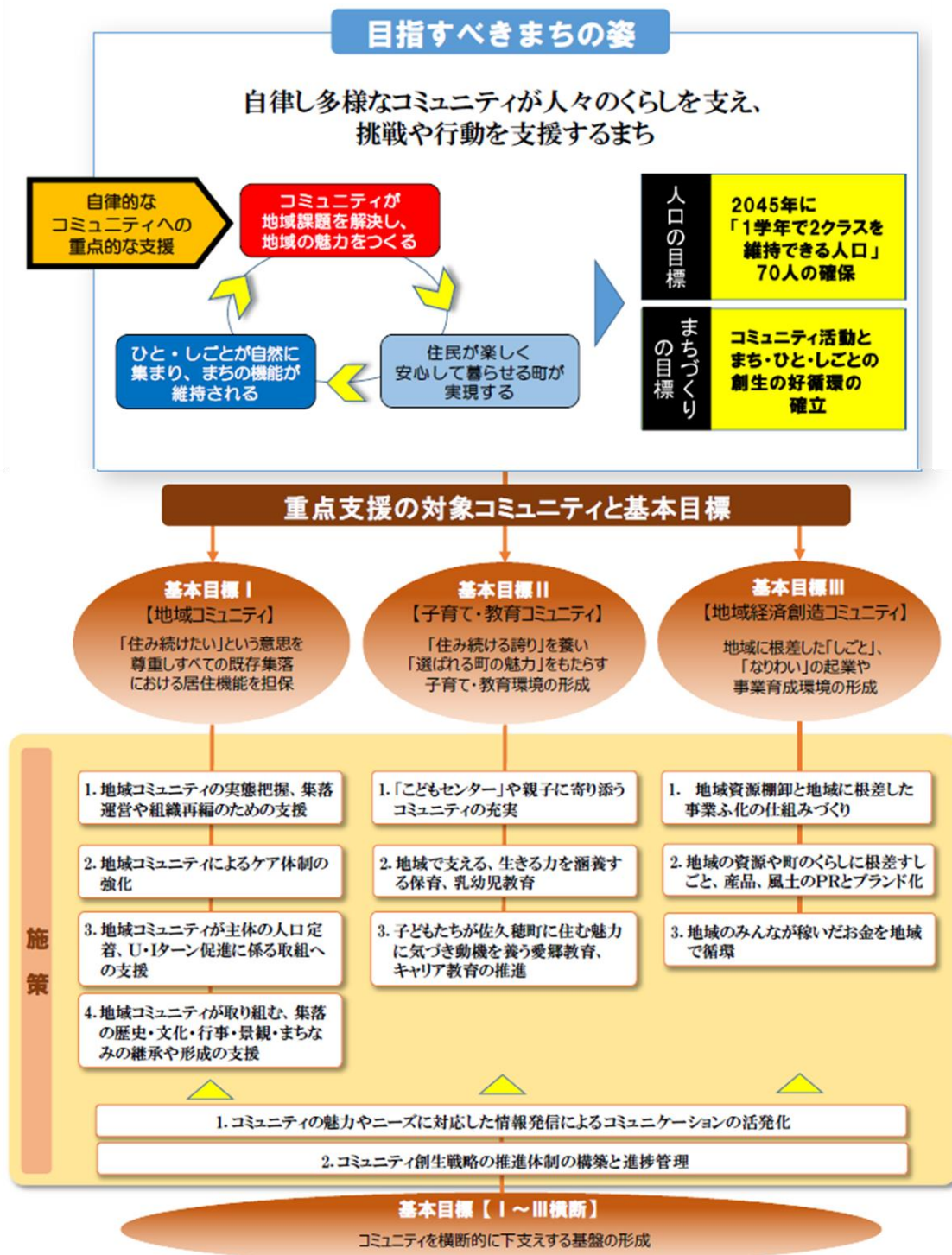
資料：佐久穂町

(2) 佐久穂町コミュニティ創生戦略（佐久穂町まち・ひと・しごと創生総合戦略）

第2次佐久穂町総合計画の中でいうコミュニティを具現化したのが表記の創生戦略であり、基本目標を地域、子育て・教育、地域経済創造の三つの視点から構成される。

図表 佐久穂町コミュニティ創生戦略の概要

1. 戦略体系

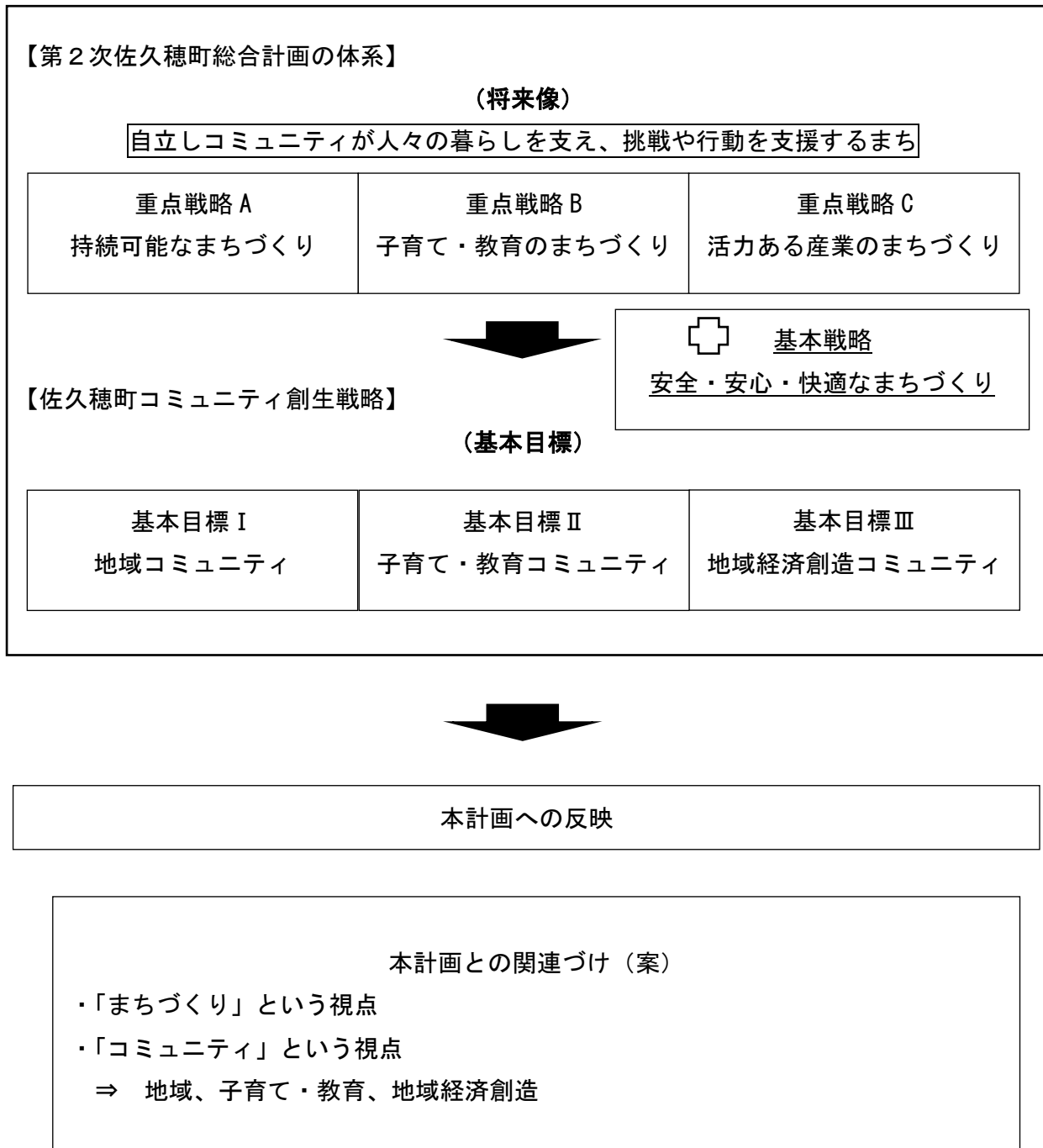


資料：佐久穂町

(3) 本計画との関連づけ

「道の駅」計画は佐久穂町の総合計画等を上位計画と位置づけ、その考え方に即した整備の方向性を目指す必要がある。

その基本はまちづくり、コミュニティにあり、本計画においても二つの視点を考慮し、地域、子育て・教育、地域経済創造について関連する事業の可能性を検証する。





#### 4. 道の駅をとりまく市場環境

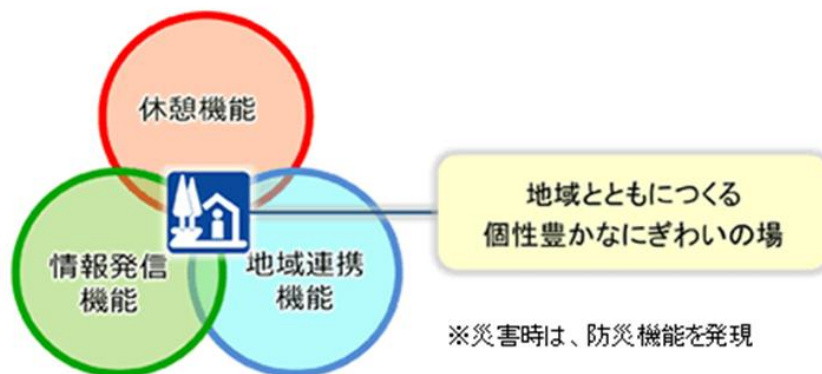
##### (1) 道の駅制度の概要

平成5年に「道の駅」認定制度が始まり、今では1,000駅を超える規模にまで広がっている。道の駅の目的は道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供及び地域の振興への寄与であり、その機能は休憩（駐車場・トイレ）、情報発信（道路情報、観光情報等）、地域連携（文化教養、観光レクリエーション等）からなる。

図表 道の駅の機能

##### ○基本コンセプト

休憩機能	・24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ
情報発信機能	・道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供
地域連携機能	・文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設や防災施設（感染症対策を含む）



また、道の駅への登録要件として、以下の点がある。

##### ○休憩機能

利用者が無料で24時間利用できる十分な容量を持った駐車場、清潔なトイレ（原則、洋式）、子育て応援施設（ベビーコーナー等）

##### ○情報発信機能

道路及び地域に関する情報を提供（道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報等）

##### ○地域連携機能

文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設

##### ○その他

施設及び施設間を結ぶ主要経路のバリアフリー化

##### ○設置者

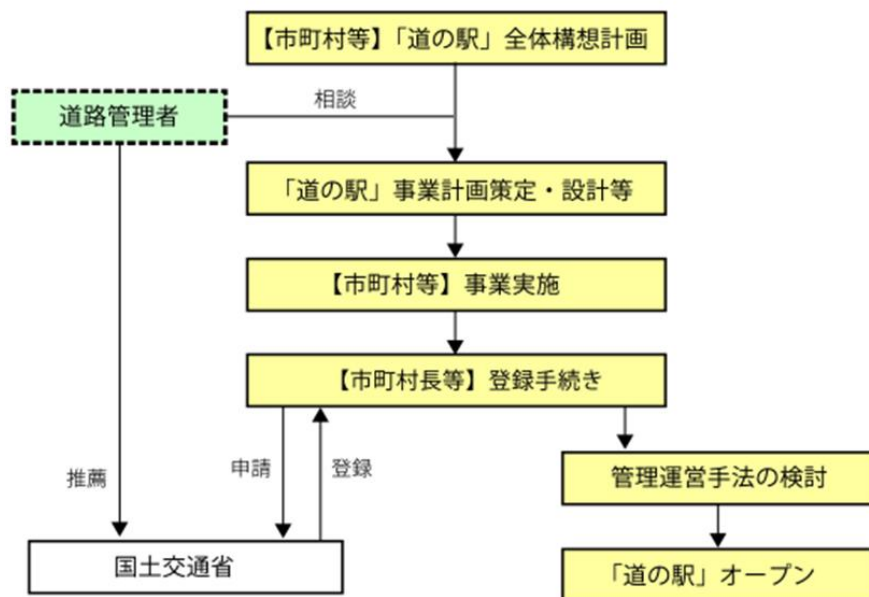
市町村又は市町村に代わり得る公的な団体※

※都道府県、地方公共団体が三分の一以上を出資する法人または市町村が推薦する公益法人

資料：国土交通省

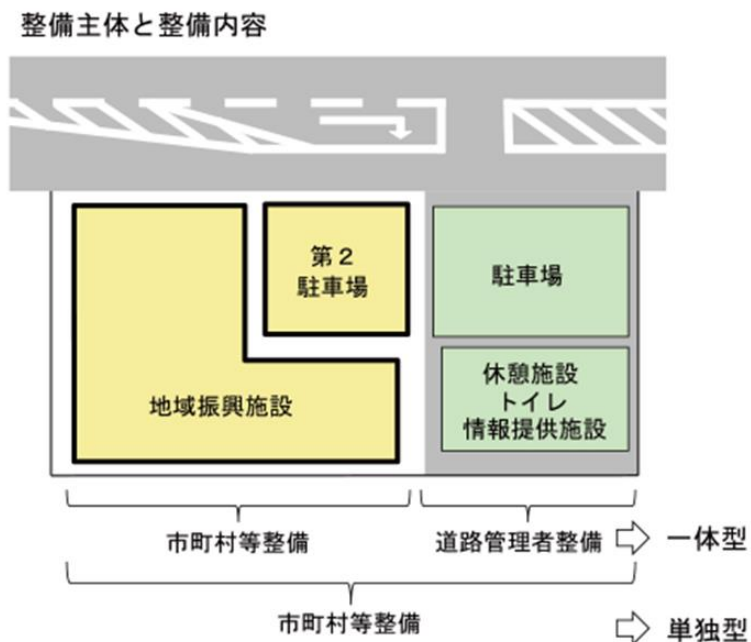
図表 道の駅の整備フロー

「道の駅」整備フロー



※道路管理者の簡易パーキングの計画がある場合、道路管理者が整備する簡易パーキングと一体的に整備する場合がある。(一体型)

図表 整備主体と整備内容

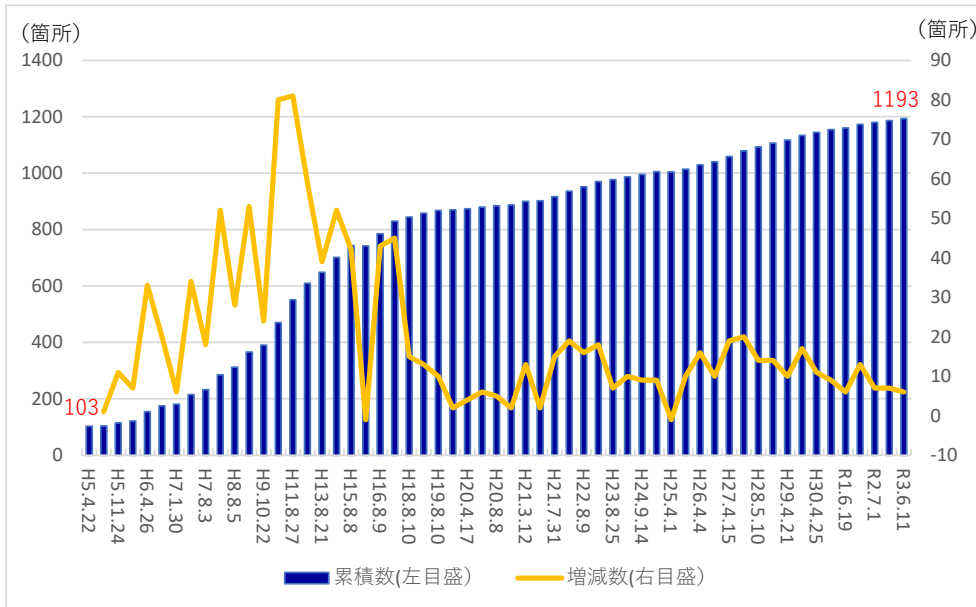


資料：国土交通省

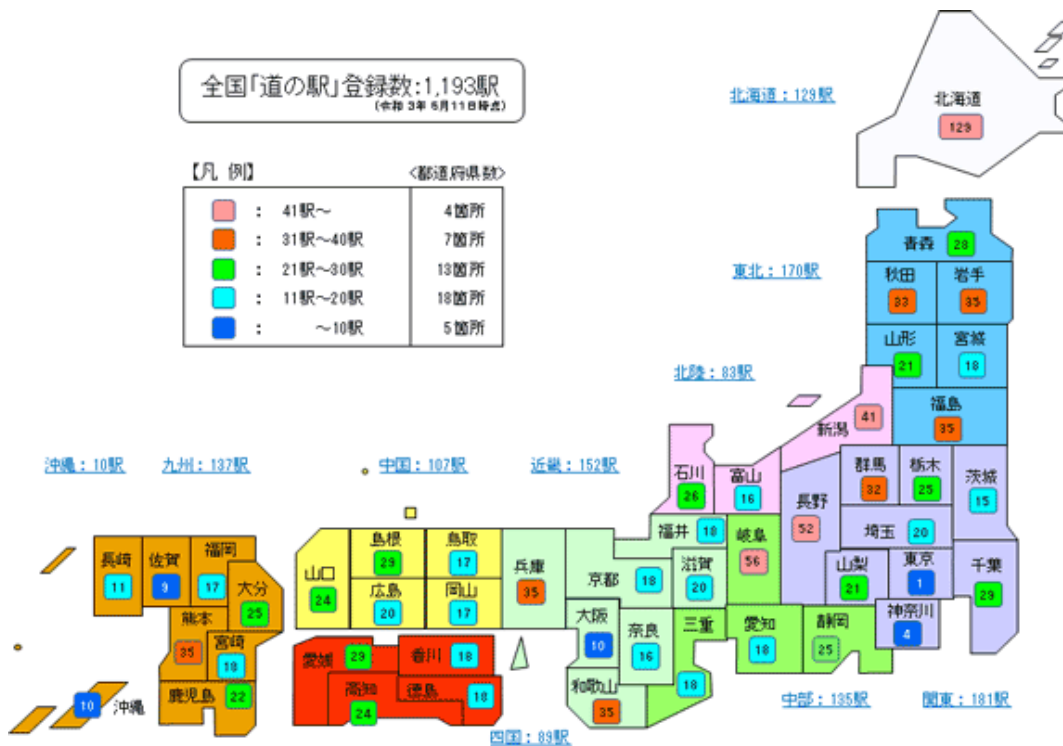
(2) 道の駅登録状況と近年の動き

同制度は平成5年4月22日に最初となる103箇所が登録され、以後平成22年をピークに各地に開設され、令和3年6月11日現在で1,193箇所ある。ただし、近年は新設箇所数も減っている。都道府県別では北海道が最も多く、長野県は全国で3番目に多い。

図表 道の駅登録数の推移



図表 都道府県別「道の駅」登録数 (令和3年6月11日時点)



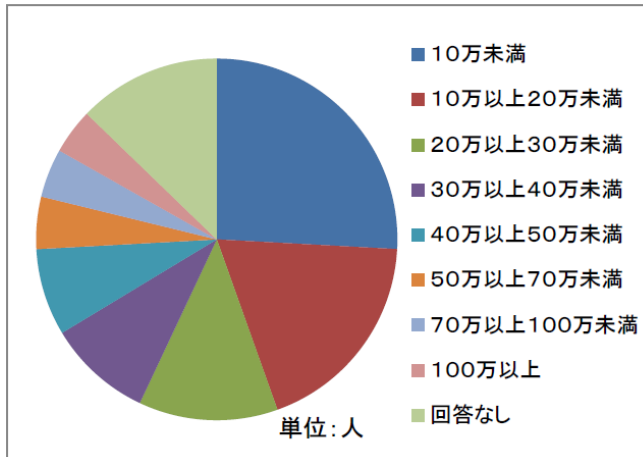
資料：いずれも国土交通省

### (3) 道の駅の動向

#### 1) 道の駅の利用・経営動向

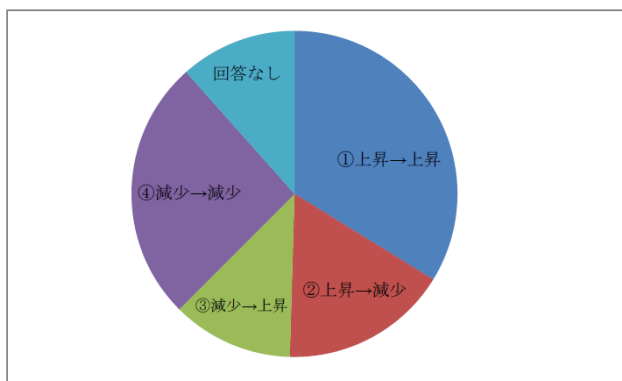
道の駅の利用者数は10万人未満(25.9%)が最も多く、半数以上が30万人未満である。経営状況については詳細が明らかではないが、4割が減少とし、うち半数は継続して減少と回答している。

図表 利用者数



区分	施設数	比率
10万人未満	83	25.9%
10～20万人未満	60	18.7%
20～30万人未満	40	12.5%
30～40万人未満	30	9.3%
40～50万人未満	25	7.8%
50～70万人未満	15	4.7%
70～100万人未満	14	4.4%
100万人以上	13	4.0%
未回答	41	12.8%
計	321	100.0%

図表 売上状況



	①上昇→上昇	②上昇→減少	③減少→上昇	④減少→減少	回答なし	
実数	73	36	26	56	25	216
%	33.8	16.7	12.0	25.9	11.6	100.0

#### 【目的】

各地方自治体の「道の駅」についての状況調査を行う事で、対応内容の傾向を把握し、改善点などの検討に役立たせるための調査を実施。

【対象】全国の地方自治体のうち、県・市・町、合計1603ヶ所の首長あてにアンケート依頼を送付。

【集計期間】平成27年2月14日から3月31日。

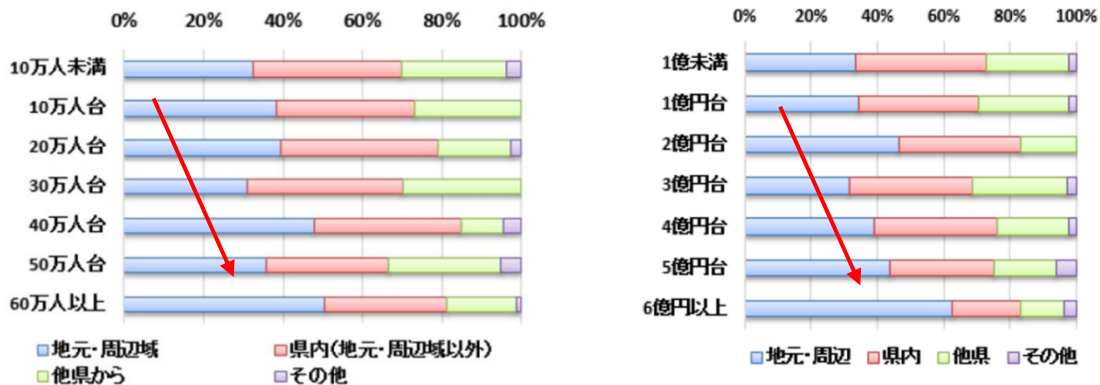
【回答数】271自治体（回収率16.90%）

資料：特定非営利活動法人 元気な日本をつくる会

利用客の発地は地元・周辺域が4割以上を占め、集客数及び売上規模が多いほど比率が高い傾向にあり、道の駅を支えるのは地域住民であることを裏付けている。

課題の上位には冬場の売上の低迷、農水産物の減少、来客者の減少があげられ、中でも農水産物については地場産のみの品揃えが難しく、近隣からの調達あるいは不足とする例が多くなっている。

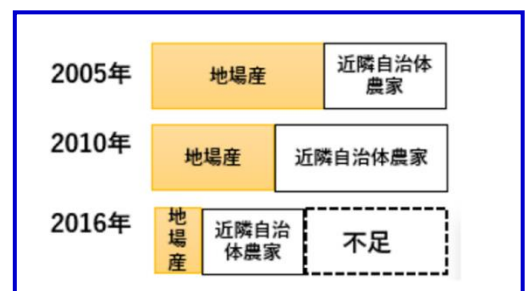
図表 利用客の発地（集客数・売上規模別）



図表 道の駅の課題（上位5項目）

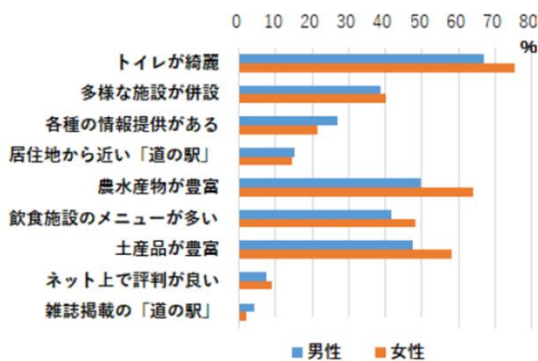
	都市	平地	中山間	湾岸
冬場の売上げの低迷	47.6%	56.5%	72.0%	58.2%
農水産物の減少	33.3%	32.0%	46.7%	32.7%
来客者の減少	23.8%	19.7%	25.6%	34.5%
光熱費	14.3%	33.3%	23.3%	30.9%
接面道路交通量の減少	9.5%	15.0%	26.1%	20.0%
近隣観光地の疲弊	9.5%	12.2%	16.6%	9.1%

図表 不足する農水産物の調達先



利用したいと思う道の駅の機能・施設では「トイレが綺麗」が最も多く、以下、農産物が豊富、土産品が豊富等となっている。

図表 利用したい道の駅



(調査概要)

- ・調査実施：平成28年3月
- ・道の駅調査：全国634施設
- ・利用者調査：WEBによる（回答者数2,066）

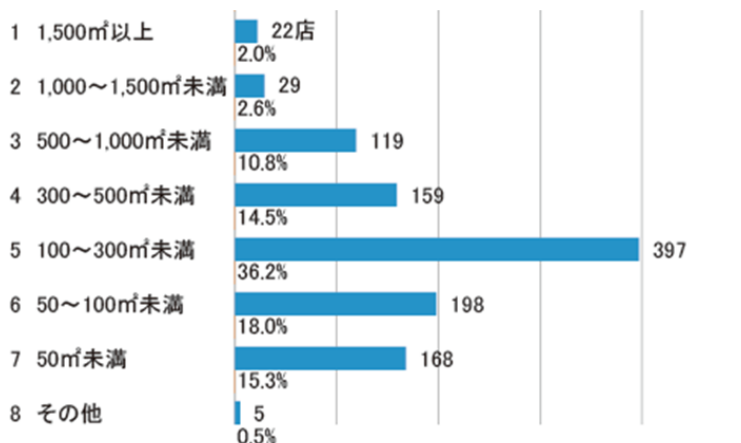
資料：「道の駅による地方創生拠点の形成」（平成28年/法政大学地域研究センター）

## 2) 農林水産物直売所の動向

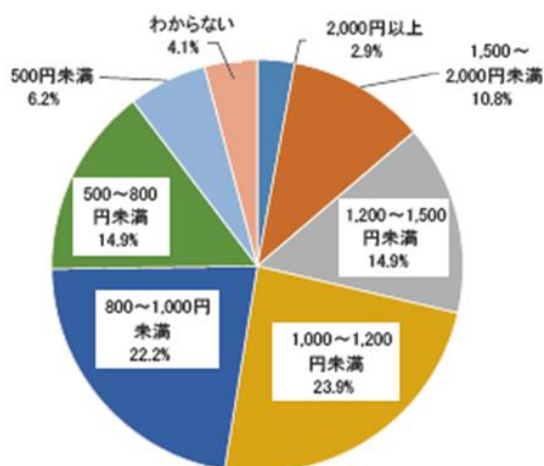
直売所の売場面積は 100～300㎡未満が 1/3、300㎡未満が 7割を占めている。

平均客単価は平日で 1,000 円未満が 4割、休日はやや高い。

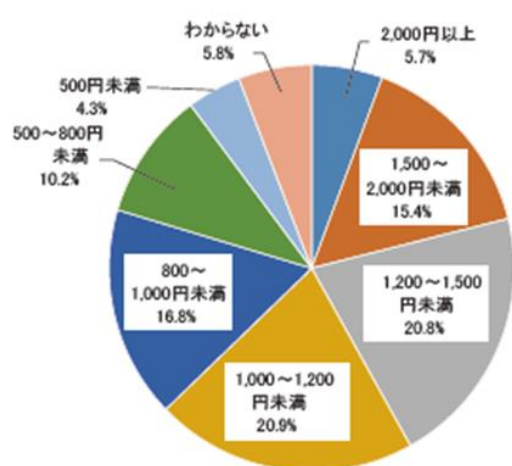
図表 直売所の売場面積



図表 平均客単価（平日）



図表 平均客単価（土日祝祭日）



### (1) 調査対象

全国の常設・通年営業を行う農林水産物直売所 4,250 店

※ 一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構のデータベースに登録されている全国の常設・通年営業を行っている農林水産物直売所。

### (2) 調査期間平成 29 年 9 月 11 日～ 10 月 20 日

(3) 調査方法郵送により個別店舗へ調査票を送付し、FAX又はメール送信により調査票を回収した。

### (4) 回答数全 1,150 店舗（回収率 27%）

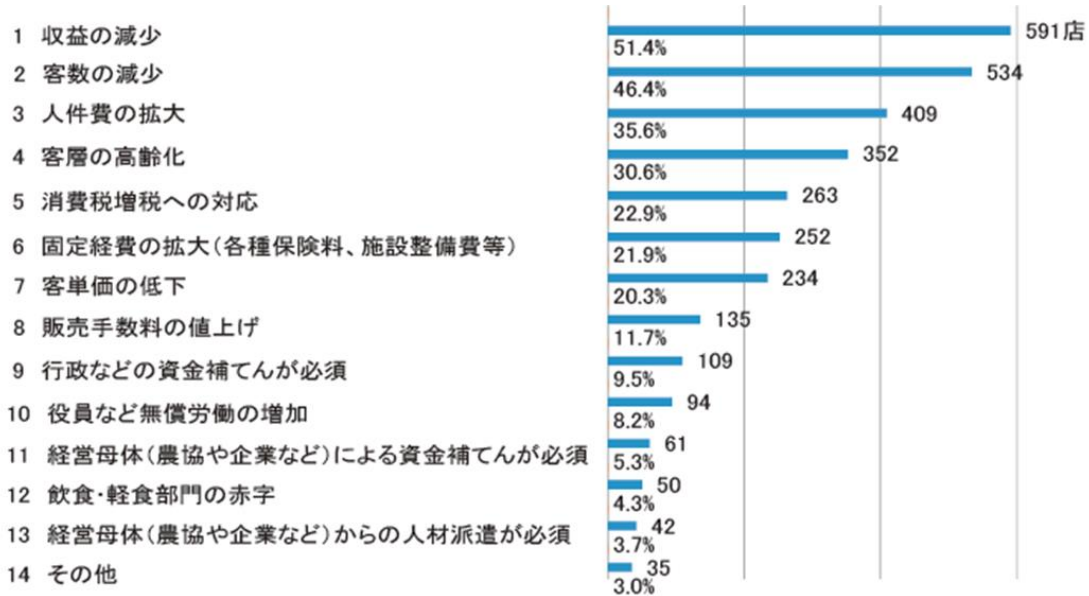
### (5) 調査項目開設目的、運営組織、営業内容、事業内容、経営内容など約 100 問

資料：「全国農林水産物直売所・実態調査から見える直売所の今と野菜販売」

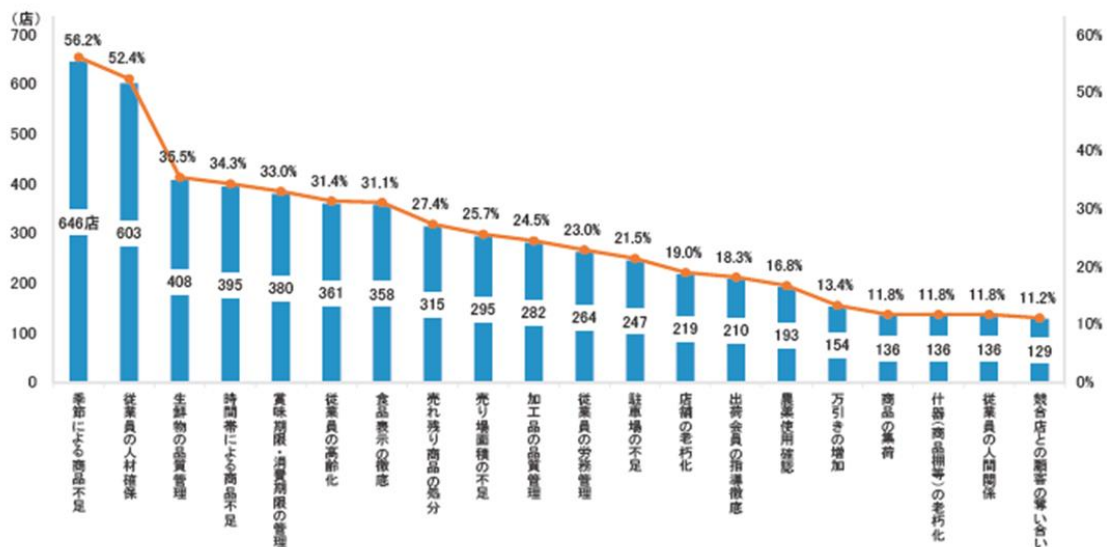
（一般財団法人 都市農山漁村交流活性化機構/まちむら交流きこう）

経営課題は収益の減少、客数の減少、また、営業上の課題では季節による商品不足、従業員の人材確保が多くなっている。

図表 直売所の経営課題



図表 直売所を営業するうえでの課題(複数回答)



資料：「全国農林水産物直売所・実態調査から見える直売所の今と野菜販売」  
 (一般財団法人 都市農山漁村交流活性化機構/まちむら交流きこう)

(4) まちの駅（佐久穂町農産物直売所）の利用状況について

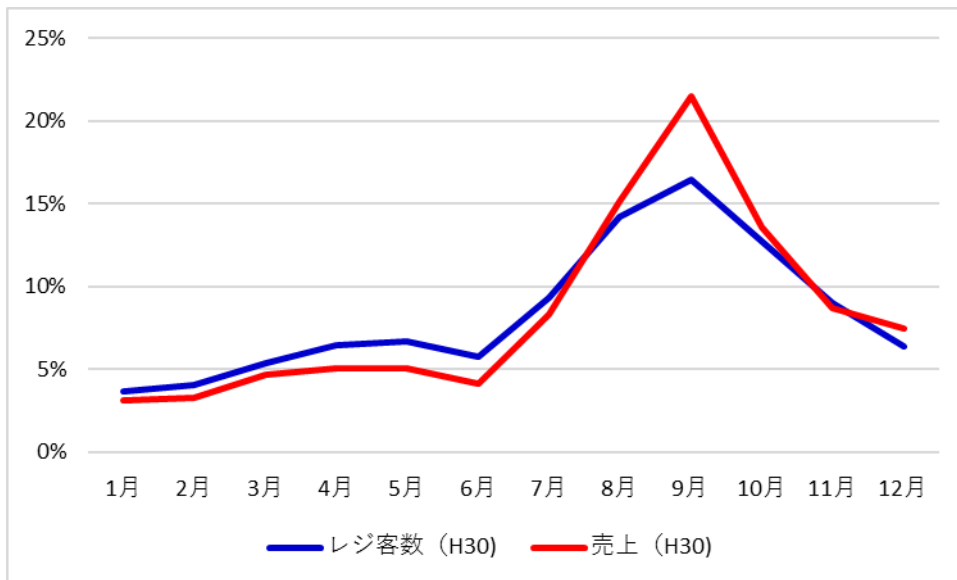
まちの駅の利用客数（レジ客）は8万人強で、年間売上は1億2,000万円、1人当たり1,500円前後である。利用者、売上のピークは8～10月で、同町特産のブルーンの時季と一致している。ブルーンは主に町内の居住者が贈答用に購入している。

なお、建物延床面積は210㎡である（電子地図による計測）。

図表 まちの駅の利用状況

	平成29年				平成30年			
	レジ客数 (人)	同1日当たり (人/日)	売上 (円)	平均単価 (円/人)	レジ客数 (人)	同1日当たり (人/日)	売上 (円)	平均単価 (円/人)
1月	2,666	86	3,561,632	1,336	3,053	98	3,964,490	1,299
2月	3,307	118	3,968,472	1,200	3,392	121	4,119,369	1,214
3月	4,457	144	5,372,844	1,205	4,511	146	5,944,914	1,318
4月	4,874	162	5,750,476	1,180	5,390	180	6,413,631	1,190
5月	6,400	206	7,464,421	1,166	5,622	181	6,434,035	1,144
6月	5,247	175	5,777,334	1,101	4,850	162	5,202,767	1,073
7月	8,170	264	10,759,183	1,317	7,830	253	10,485,288	1,339
8月	11,594	374	16,835,372	1,452	11,922	385	19,143,444	1,606
9月	13,711	457	25,039,363	1,826	13,846	462	27,250,107	1,968
10月	10,577	341	17,111,967	1,618	10,685	345	17,228,204	1,612
11月	7,725	258	10,347,286	1,339	7,538	251	11,055,409	1,467
12月	5,323	172	8,731,059	1,640	5,371	173	9,445,816	1,759
年計	84,051	230	120,719,409	1,436	84,010	230	126,687,474	1,508

図表 月別レジ客数、売上の比率（平成30年）



資料：佐久穂町農産物直売所の会



(参考)



## 佐久穂町の活性化を図り 安全・安心で販売「まちの駅」

「まちの駅」佐久穂町農産物直売所  
会長 **嶋崎 敏彦 さん**



**がんばる  
さくほの  
チヨ一民**

佐久穂町ショッピングパーク「ラーチ」内の駐車場に隣接している「まちの駅」は、いつも多くの人でにぎわっています。去年の3月から会長を務めておられる海瀬新田の嶋崎敏彦さんにお話を伺いました。

- 「まちの駅」を紹介してください。  
町内の約180人の会員が町内で栽培・収穫された安全・安心な地元産、野菜、果樹、花丹その他各種加工品等約600品目を扱っています。  
自分で作ったものを自分で売りたいという考えからスタートし、現在も佐久穂町産だけを扱っている点が一番の特徴です。  
また、佐久穂小中と町内保育園3ヶ所に給食食材を納入し、その地産地消率は県下でトップクラスです。
- 「ヘルシーテラス佐久南」がオープンして影響はありますか。  
オープン当時は、若干の影響はありましたが、それほどではありませんでした。昨年は町民・会員の皆様のご協力で最低売上目標1億円を達成することができました。
- 中部横断自動車道1C開通しましたが変わったことはありませんか。  
これからの様子を見ないとなんとも言えませんが、状況の変化の中で地域に密着した安定的な運営を心掛けていきます。
- 八千穂高原1C付近に「道の駅（仮称）」が造成される予定ですが、

- 後継者問題はどうか。  
後継者不足もあり生産者が減っていくのが心配です。現在は若い人たちが頑張ってくれて新しく加入していただき会員数は現状維持できています。
- 今後の目標は何ですか。  
ブルーンがブランド化しつつあるので、それを核として、佐



佐久穂町農産物直売所「まちの駅」

定ですが、出店のお考えは。  
「まちの駅」では現在の諸事情を考えると町民に定着している今の所が一番良いと思われ「道の駅」に親合するところがあれば心配です。両方に分散は難しく、今は考えていません。

- 最後にひと言お願いします。  
多くの先輩たちが育ててきた直売所も丸15年になりました。直売所の安定的な運営は、町民の皆様をはじめ多くの皆様にご利用いただいたおかげと感謝申し上げます。  
一会員としては、ブルーン・リンゴの生産者であり、日々の作業に追われている中で会長を引き受けましたが、家族の協力で今日まで来ました。  
安全・安心な地元産の農産物等を販売し、地産地消に貢献し皆様方にご満足していただけるよう頑張っております。今後も多くの皆様のご利用をお待ちしております。
  - 安全・安心な農産物を安価に消費者に届け、生産者と生活者のコミュニケーションの拠点として、そして食育活動なども含めた食と農の交流拠点としての重要な役割を今後も担ってまいります。
- （聞き手 石井正行）

資料：さくほ議会だより（平成30年6月号）

(5) 道の駅の需要動向

道の駅の3つの機能について、その対象及び特性は以下のとおりである。基本機能のうち休憩は観光客、地域連携（直売所等）は町民（地域住民）が主な対象である。

なお、情報発信は観光客に向けての道路・観光情報が中心であるが、最近では住民への生活・防災情報を提供する動きがある。

図表 道の駅の3機能について

機能	対象		特性
	町民等	観光客	
休憩 ( 駐 車 場・トイ レ)	△	○	・ 観光客利用が多く、季節、曜日による変動が大きい。 ・ 町民等の利用もあるが、町内にコンビニ等同様機能を持つ施設がある。
情報発信	○	○	・ 観光情報等に加え、町の緊急医療、防災等の情報を付加する。 ・ 有人体制での運営は経費負担もあるため、無人による運営も行われている（地域連携施設等の係員が兼務）。
地域連携 ( 直 売 所 等)	○	△	・ 直売所等の利用は地域住民が大半であり、その需要が見込める地域（人口が集積する大都市圏）での成立性が高い。 ・ 観光客の立寄りもあるが、観光客にとっては通過地点に競合施設（高速道路のSA、PAを含む）が多数存在しており、選択肢が多く、突出した品揃えが不可欠である。

○は主な客と想定される層 △は従となる想定される層

道の駅に関する需要動向の一例として、2017年にJAFがホームページを活用して実施された道の駅に関するアンケート調査の結果を整理した。

調査期間:  
2017年8月8日(火)  
～9月7日(木)

調査対象:道の駅を利用  
する全ての方

調査方法:インターネット  
によるオンラインア  
ンケート  
※JAFホームページ  
のみを活用

1 回答者属性

(1) 居住地域

地域	回答者数	構成比
北海道	1,680	4.4%
東北	2,295	6.0%
関東	13,768	36.2%
中部	6,531	17.2%
関西	7,483	19.7%
中国	2,241	5.9%
四国	840	2.2%
九州	3,162	8.3%
	38,000	100.0%

注) 各地域の所属している都道府県は以下の通りです。

北海道:北海道  
東北:青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島  
関東:茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川  
新潟 山梨 長野  
中部:富山 石川 福井 岐阜 静岡 愛知 三重  
関西:滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山  
中国:鳥取 島根 岡山 広島 山口  
四国:徳島 香川 愛媛 高知  
九州:福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄

(2) 年齢別・性別回答者数

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	合計
男性	13	262	1,073	5,210	9,679	13,845	30,082
女性	10	264	827	2,329	2,923	1,565	7,918
合計	23	526	1,900	7,539	12,602	15,410	38,000
構成比	0.1%	1.4%	5.0%	19.8%	33.2%	40.6%	100.0%

利用目的は、休憩・トイレが52.9%、次いで食事・買物が42.5%でこの2つで約95%に達する。ドライブの際の道の駅が、「目的地化している（かつ事前に調査）」という回答は3割弱（29.1%）で見かけると立ち寄るが38.7%、目的がなければ寄らないという回答は30.3%で、7割は受動的な感覚で施設に対峙している。

目的地化している回答者層が事前に調べる項目ア、土産、食堂の2項目で約8割に達する。

①道の駅を利用される一番の目的は何ですか。

項目	回答数	構成比
休憩・トイレ	20,116	52.9%
食事・買物	16,156	42.5%
その「道の駅」にしかない施設の利用（入浴・体験等）	1,375	3.6%
その他	353	0.9%
合計	38,000	100.0%

②ドライブにおける「道の駅」の位置付けについてあてはまるものはどれですか？

項目	回答数	構成比
目的地の一つであり、事前に調べてから出かける	11,063	29.1%
走行中、見かけると必ず立ち寄る	14,694	38.7%
特段目的がなければ寄らない	11,511	30.3%
その他	732	1.9%
合計	38,000	100.0%

③事前に何を調べますか？

（上記②で「目的地の一つであり、事前に調べてから出かける」と答えた方のみ回答）

〔回答〕（複数回答を含む）

調べること	コメント数	構成比
レストラン・食堂情報	9,034	37.9%
土産（特産品含む）	10,532	44.2%
営業時間	3,156	13.2%
EV充電器の有無	197	0.8%
その他	900	3.8%
合計	23,819	100.0%

↓  
その他の記載内容

〔回答〕（自由回答）

コメント数	コメントに含まれるもの（抜粋）		
900	広さや規模	トイレの個室数	特産品の詳細
	駐車場の大きさ	RVパーク	車中泊に適しているか
	コンビニの有無		
	周辺の観光情報	目的地への道沿いか	英語表記の有無
	混雑度	記念切符の有無	イベントの有無
	ご当地ソフトクリーム		

出典：JAF ホームページ

<https://jaf.or.jp/common/news/2017/20170922-01>

「あれば」と思うサービスについては、入浴施設、給油、各種情報提供、営業時間の延長、ATM、ドリンクサービスがそれぞれ10%内外で拮抗している。

JAFでは2010年11月にも同様のアンケートを実施し、同じ質問を設けている。その際の「給油（ガソリンスタンド）」の順位は7位（構成比：4.0%）という結果であったことから、全国の給油所数は減少傾向にあり、2016年度末現在で31,467カ所とピークである1994年の60,421カ所（資源エネルギー庁「揮発油販売業者数及び給油所数の推移（登録ベース）」より）とおおよそ半減していることを要因のひとつとしてあげている。

買い物に使う額は1000～3000円未満が最多で64.7%、次いで1000円以下が20.9%であった。

#### ④ 「道の駅」にこんなサービスがあればと思うものは何ですか？

[回答]（複数回答可。最大3つまで。）

施設・サービスで望まれるもの	コメント数	構成比
入浴関連施設	12,413	13.8%
給油（ガソリンスタンド）	10,166	11.3%
各種情報提供	10,111	11.2%
営業時間の延長	10,021	11.1%
仮眠施設	9,674	10.7%
ATM	8,320	9.2%
ドリンクサービス	8,162	9.1%
インターネット通信等の環境整備	5,554	6.2%
現状で満足・特になし	3,754	4.2%
こども向け施設	3,630	4.0%
携帯電話充電サービス	3,249	3.6%
マッサージ	2,520	2.8%
ペット関連施設	2,487	2.8%
合計	90,061	100.0%

#### ⑤ 「道の駅」での買い物に一人あたりどのくらいお金を使いますか？

[回答]

項目	回答数	構成比
1,000円以下	7,945	20.9%
1,000円～3,000円未満	24,598	64.7%
3,000円～5,000円未満	4,434	11.7%
5,000円以上	481	1.3%
お金を使わない	542	1.4%
合計	38,000	100.0%

出典：JAF ホームページ  
<https://jaf.or.jp/common/news/2017/20170922-01>

(6) 立地市場環境が類似した施設の成功事例

1) 道の駅あおき(青木村) ※重点道の駅

- マツタケの名産地としての集客が中心だった、村内出荷者の努力により出荷物が増えたことにより、店舗規模を大きくすることができ、集客数も増えた
- 村の魅力をPR、村民のための環境づくり等に力を入れた。

項目	内容
所在地	小県郡青木村大字村松 26 番地 1
面前道路名	国道 143 号
交通量	青木村田沢字青木 121 : 4,736 台/12h (小型車 4,438 台、大型車 298 台)、6,015 台/24h (小型車 5,516 台、大型車 499 台)
30 分圏人口	180,613 人 (平成 27 年国勢調査)
敷地面積	-
延床面積	農産物直売所 : 売場面積 470 m <sup>2</sup> (建物面積 770 m <sup>2</sup> )
開設、登録年	<p>登録 : 平成 17 年 8 月 10 日、供用 : 平成 18 年 4 月 27 日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 16 年に閉店したパチンコ店を改修し、農産物直売所が開設、翌年度の駅登録、18 年に食堂施設、21 年に農産物加工施設が整備された。</li> <li>・隣接地 (道路の向かい) に防災機能を備えた多目的公園「ふるさと公園あおき」(16,000 m<sup>2</sup>)が開園した (27 年 11 月)。</li> <li>・29 年 4 月に新しい農産物直売所が開業、研修施設や情報発信施設、都市農村交流施設が順次整備され、食堂 (100 席) も規模を大きくして新築 (29 年 11 月 1 日)。</li> </ul> <p>(重点事項) ①消費者に信頼される魅力あふれる店作り (農産物直売所) ②出荷者が活気あふれる店作り (農産物直売所) ③村の食を楽しむ店作り (味処こまゆみ) ④村の魅力を伝える観光案内 ⑤家族で憩える広場 (ふるさと公園) ⑥災害時拠点 (ドクターヘリによる救命緊急患者搬送等)</p> <p>(今後の計画)</p> <p>体験学習、体験交流拠点、お惣菜加工、高齢者宅配サービス等の拠点機能を新設し、仕事帰りにも立ち寄れる「いつでも開店している道の駅」を目指す。</p> <p>松本への国道 143 号青木峠新トンネル開通 (早期着工を目指す)</p>
事業主体	青木村
運営主体	株式会社道の駅あおき (平成 28 年 4 月 1 日に法人化)
事業方式	・指定管理者制度。独立採算、運営・管理料の発生はない (資料 : 「道の駅を核とした観光まちづくり交流拠点官民連携事業調査業務報告書/白馬村/平成 30 年 2 月」)
施設概要	<p>①農産物直売所 9:00~18:00、定休日 : 年末年始を除き年中無休 (臨時休業の場合あり)</p> <p>②味処こまゆみ 11:00~14:30、定休日 : 年末年始を除き年中無休 (予約貸切・臨時休業の場合あり)</p> <p>ソフトクリーム 11:00~16:30、冬期営業時間 11:00~14:00</p> <p>③駐車場 (24 時間利用可) 小型車 52 台、大型車 8 台、身障者用 2 台 電気自動車急速充電器 1 台</p> <p>④道の駅トイレ (24 時間利用可) 男 7、女 5、子供用 2、多目的 1</p> <p>⑤味処こまゆみトイレ (店外) 男子 8、女子 5、多目的 1 (17 時まで)</p>

	<p>※農産物直売所店内にはない</p> <p>⑥ぷらっと家(ホーム)あおき(情報発信・休憩施設) 9:00~17:00 椅子・ソファ約 30 脚、80 インチの大型モニター、地元企業の製品や村の特産品の紹介スペース、昆虫博物館の出張展示、PC 設備</p> <p>⑦授乳室(ぷらっと家あおき横) 9:00~17:00 ベビーベッド、調乳専用浄水給湯器、流し台</p> <p>⑧休憩室 9:00~17:00 畳敷きの休憩所</p> <p>⑨Wi-Fi(無線 LAN) 直売所内市庭(店舗前広場)付近</p>
利用者数	平成 26 年度/10 万人(レジ客数)
年間売上高	平成 28 年度/190,000 千円(直売所 155,849 千円、食堂 33,571 千円、その他 580 千円) ※1 人当たり 1,900 円(資料:上田市)
代表的な産品	マツタケ、キノコ 同村名産のタチアカネを用いたソバ
成功要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同町周辺で採れるマツタケ販売を中心に集客してきたが、村内出荷者による他農産物の生産力強化が店舗規模の拡大、集客増に結びついている。</li> <li>・さらに村の魅力を伝える工夫(店作り、村の味作り)、村民のための環境づくりを進め、集客力を強化している。</li> </ul>



資料：道の駅あおき HP

2) 雷電くるみの里（東御市）

- 市の偉人と名産をテーマとし、様々な商品を生み出す戦略が功を奏している
- 上田市（長野県第3の都市）に隣接している（近隣人口が多い）

項目	内容
所在地	東御市滋野乙 4524-1
面前道路名	長野県道 79 号（小諸上田線）※浅間サンライン
交通量	東御市鞍掛 385-1（鞍掛交差点）：12,363 台/12h（小型車 10,546 台、大型車 1,817 台）、16,566 台/24h（小型車 13,950 台、大型車 2,616 台）
30 分圏人口	313,018 人（平成 27 年国勢調査）
敷地面積	-
延床面積	787 m <sup>2</sup>
開設、登録年	登録：平成 15 年 8 月 8 日、供用：平成 15 年 9 月 28 日
事業主体	東御市
運営主体	有限会社 雷電くるみの里
事業方式	・指定管理者制度。賃料の支払いはなく、管理料として年 150 万円が県から市を通じて支払われる（「道の駅を核とした観光まちづくり交流拠点官民連携事業調査業務報告書/白馬村/平成 30 年 2 月」）
施設概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定休日なし(12 月メンテナンスの為、臨時休業 1 日あり)</li> <li>・営業時間（下記参照） （1 階）</li> <li>①食堂「お食事処・湯の丸」7：00～19：00</li> <li>②軽食「雷ちゃんカフェ」10：00～15：00 頃(日によって延長)</li> <li>③農産物直売所・お土産品売店 8：00～19：00</li> <li>④雷電資料館(入場無料) 9：00～18：00</li> <li>（2 階）多目的スペース(利用料無料) 8：00～19：00※要申込み</li> <li>⑤駐車場（24 時間利用可）小型車 100 台、大型車 20 台、身障者用 2 台、屋根付き、二輪スペースあり</li> <li>⑥トイレ（24 時間利用可）/男：小 12・大 3、女：15、多目的 1、子供トイレ男女各 1 ずつ</li> <li>⑦電気自動車・急速充電器 24 時間利用可</li> <li>⑧無料休憩所 24 時間利用可(室内・暖房あり)</li> <li>⑨無料 Free Wifi</li> </ul>
利用者数	平成 24 年度/45 万人、25 年度/43.5 万人、26 年度/45.9 万人、27 年度/49.3 万人（レジ客数） （延来訪者数） 平成 29 年：998,700 人、平成 30 年：1,025,400 人（県内客 60%、県外客 40%）資料：長野県観光地利用者統計調査
年間売上高	平成 29 年：560,704 千円（同 1 人当たり 561 円） 平成 30 年：627,396 千円（同 1 人当たり 612 円） （長野県観光地利用者統計調査による観光消費額）
代表的な産品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国一の生産量を誇るクルミを使った商品</li> <li>・江戸期の名力士「雷電」にちなんだ商品（菓子、酒等）</li> <li>・新鮮野菜、果物（巨峰、リンゴ等）</li> </ul>
成功要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の偉人、名産を活かした商品づくりにより積極的な集客戦略</li> <li>・長野県第 3 位の人口（15.7 万人）を上田市に隣接している立地も要因のひとつである</li> </ul>



[情報コーナー]

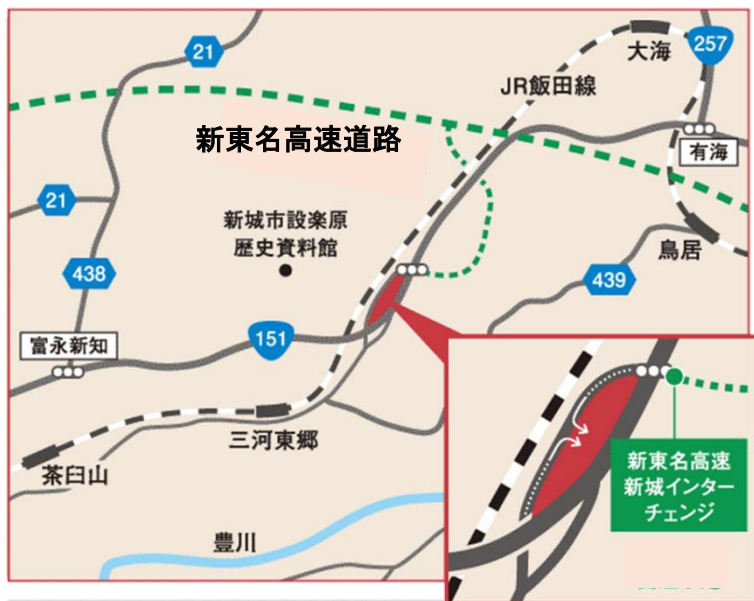
資料：道の駅雷電くるみの里 HP



3) もつくる新城（愛知県新城市）

- 一時退出利用により、立寄りが促進されている
- 名古屋市等大都市圏から1時間圏に立地している

項目	内容
所在地	愛知県新城市八束穂五反田 329-7
面前道路名	国道 151 号新城バイパス（新東名高速道路新城 IC 出入口） ※1 時間以内の同 IC での出入（一時退出利用、順方向へ走行） は降りずに利用した場合と同料金となる
交通量	新城市川路字竹広：9,030 台/12h（小型車 8,097 台、大型車 933 台）、12,281 台/24h（小型車 10,724 台、大型車 1,557 台）
30 分圏人口	146,796 人（平成 27 年国勢調査）
敷地面積	3,830.34 m <sup>2</sup> （駐車場部分除く）
延床面積	計 1,073.69 m <sup>2</sup> （木造、2 階建て） 地域振興施設（物販、フードコート等）936.47 m <sup>2</sup> 地域情報提供施設 82.83 m <sup>2</sup> その他 54.39 m <sup>2</sup>
開設、登録年	登録：平成 26 年 10 月 10 日、供用：平成 27 年 3 月 21 日
事業主体	愛知県新城市（総事業費 8 億 5,607 万 6,000 円）
運営主体	株式会社名鉄レストラン ※情報提供施設は市が管理している。
事業方式	・指定管理者制度。指定管理料、利用料金制ともになし。 ・営業利益が生じた場合は当期営業利益の 20%を維持管理費負担金として市に支払う。（資料：新城市）
施設概要	営業時間：9:00～18:00（年中無休）※足湯のみ 10:00～16:00 木曜日休み ①レストラン（バイキング方式） ②物販 ③情報コーナー ④駐車場：小型車 75 台／大型車 13 台／身障者用 2 台 電気自動車用充電器：急速・普通充電器を各 1 基 ⑤トイレ：男性（小）8 器（大）3 器／女性 11 器／多目的 2 器 ⑥足湯 ⑦防災機能（物資の集積拠点、受水槽、自家発電装置等）
利用者数	（延来訪者数）平成 27 年/113 万人、28 年/155 万人、29 年/125 万人、30 年/119 万人（愛知県 観光レクリエーション利用者統計） ※レジ客数は不明 車種別では豊橋、名古屋が多いほか、静岡ナンバーも見られる（※中日本高速道路株式会社）
年間売上高	年間総収入額は 4 億 7,400 万円。（資料：岐阜県北方町議会）
代表的な産品	ジビエ（イノシシ等）、山菜、キノコ
成功要因	・高速道路 IC 脇にあり、一時退出利用が可能のため、立寄りを促している ・1 時間圏ながら名古屋市等の大都市圏が控えている



資料：もつくる新城 HP